

第一幕——氷の接吻——

翌日は僕のが極めつけのトロ生の頭 真珠の旱蘭 オランダ花と画根
の朝顔を見るにつけ カくも花蓮だらかに僕の不^{アリ}証明^{ビヤイ}が思いかえさ
ぬる程に 今日にする花蓮を。ペラリと一枚切り受けば 彼方での月をつん
さうして“花蓮”という名の梅の頭が崩壊していわすの空心が迫るのに こ
の耳の周辺ではとんでもない耳の様にしか届かない そんな音がやい光景を理
論的^{テクニカル}に説明して同じの真珠をみて—— 第一幕

一株といきり出でた。と悪う人があれば そんすうロライ^ト・オーランが
寝した銀髪の向うを見て相思するがまうが

——ア台には 銀髪飾もトシマ^{トシマ}ーを振り下して男の子が 両親の頭をめ
た打ちにしている姿が見える。

——メモリ^{メモリ}が遠くに消えると 近くには 接吻する新約者、の一人

つまり男の方、ぐくと頭を上げる
男の子、白衣にかがた橋を渡り 消える

複数の鳥たちが、飛翔するトコ、となる一葉葉が、複数の鳥たち
の舞様が、慶太に顔を上げた

奥様

(厳しく)——誰 左牛をアーティカキモラしてござるのさ。

まるでアローラーの様に

——タイトル

まろみせ草のかき番ソ トーエヌヌ——

の字

ト、
一人の男が、橋の上もとへやこひいがの見える。キヒヨー通のキ紙
ハシリ面に落す——

白虎の郷飯笠山と雲中る鶴城ノ松ヒ一軒の庵家が有ル。野口彌作翁の

英世が二の廟で高麗ケヒ座幸を上げて夜 来光のエルサレムに日本東ス
リ三人の博士が名てきたという らが承兌清作はオキアヒ泣く代ソ建
氣にも叫んだ “天上天下唯我無尊” とももももくいが間違いの始リで
はなかたか 生子ハ赤兎の左耳はしかと推のれにます微塵も開ニラ
としなねたのじ 野口英世ニ才の砌、因炉裏ヒ左耳を三二ヶわき回レ
セの何の口右年伝記作處の二ねゼデマフキ一に過ぎないとしても 推
らぬ左耳の中に何か能づめていたと言ラカ クレは詫々だ 生ま
れなげの國の亡弟公 野口が世間ヒかけた詫々とは 僕はこの詫を
解いてしすりたり 一足を樹にかけ也

「ト、ウの時 横の向うより声がかかゑ

声 ウの左拳は单に
え?

少年 声 世間しジヤニケニをしたんじばいでしょうか
ウ年 生まへた瞬間に?

少年 声 ウの時世間かに一を出したか音ギでいつだか、それこり越々で可
少年 声 瞬々と解いたりの声は?

声 この声は天の声だ

(ト、横の上に一人の中年男が立つ)

少年 人間じばいか

中年 天声人語とあうぢろう

少年 では何向うから?

中年 何こらへ

少年 誰だ一体

中年

私が、私は人叫んで芸能人だ

少年

自分で叫べ

イルカに乗った中年と叫べて叫べる

すると川向うは中年の国があ

中年

川向うは芸能界、君の知らない天の国さ

中年

天の声が地上へ降りて何してんのさ

中年

うん、こちら辺に落ちてなかたかと思つて（辺りを見回す）

少年

天の羽衣が？

中年

あ、知ってるな、隠したな（飛びかかる）返せこの野郎④

少年

（よけ）見ませんよ！んな物

中年

頼む、俺を地上へ縛りつけないでくれ、うだ、返して呉れたらこれ

をやろう（銀のハンマーを渡す）

何です、銀のハンマー？

綺麗だろ、だから返して

要りませんよ、羽衣だて知らない

中年

嘘つき、片んは己ヒで私の様な立派な中年にはれると思うか

少年

こんなのも立派と言ふのか？

フ中年 晴としイ人は私を芸能道慈寂と呼ぶ

少 年 あ い だ が ?

中年 はい

少年道徳家

中年
元元

少年
片桐之介謹白

中年
説々なうは解いてくれ
さあ歸れ
さあ
さあ匈へ舞く道徳
と言ふ

口の先からもう道徳がんだ
じてに道を説く人ほん下すね

四

では教えで下さい僕に、道のことをお

七
の道

己の橋乞趣す道路

私は片づいて道のことはよく分らん

道に迷うたらしいんですね。

君がの

少算を辛づいたいヒこの道を歩ました所、複線がさ迷い道にも迷いました。

中年 うへでは此處が

此處は?

中年 青春時代の真中に違ひはない
少年 やつぱり橋を越えて中年か

中年 朝はうから道ほんか問うな
少年 向うして?

中年 夕べに死にます

中年 知りたいんぢよ是非

中年 思うにこれは

中年 この道の先は?

中年 ローマではないでしょうか

中年 全ての道はローマに通じるから

失れ 御免へ去ろうヒスル

8 少年 侍のローマは一日も成らぬが
遠いんですか?

・ 中年

気が遠くなります。は、思いことは古めん。ローマはやめてギリシアに
しほさい

ギリシア?

中年

ローマは右ギリシアは左ギリシア。左ギブドーの故を続けたいのなら
ギリシアにレヒテ。ヨーローマは名にし負う右午の帝国だが、だからお

前も――

（ト、古いかくて中年、ア台中央にある雪を被った椰子の木にミックフを受け

つける）

少年

何うしたい?

中年

クの昔、俺が極めつけの小学生だと思える時分、南の果て南極大陸とはキビクロサンホと密林の國だと感じ込んでましをところ村上先生から南極もまた北極同様氷と吹雪の世界だと教えたハイメエジの相克ヒカルでいた三四年の轟から五年生の夏の間の僕の脳味噌の中の様な眺めだまる

少年

今日の天気は雪所により放囃せからば

中年 薙かんのか名は、

少 年 世界の吹き溜りだからなここは

小学生の頭脳は柔軟だ

こいなのは何うせ意味なんてありやしないんだ（椰子を蹴る）

この不届き者は大丈夫かい太郎、痛がたろ、見ろ、可哀相に痛つヒる

目付が違う

太郎の眠りをめぐ面白えか

何で椰子に名前があるんだよ

風呂敷広木駅前下商売する査具師ヒヂト名前がないか？

あ小とは違うでしきうが

ヒヂト区別私は嫌いだ

じみ椰子の木が寄引きの料白をしゃべるかよ③

馬鹿かお前は、何で椰子の木がしゃべるんだよ④

片付見たことか

あ、片付か、これが区別すると言うことなんだ、一步進ぬ一世の中ヒ

近づいた

少 年 小説が中年にお勉強を教えアします。

少 年

「中年

三

しまだ糸糸が生れを故郷ではぬ、雪ふりつむきのは繼太郎や叔郎等に

少年

片小近代詩う国ですか?

中年

いや南極のが始ま

少年

之?

中年

雄々しかったよ、規制隊員に見捨てられ果ては悲情にもあつてゆく、あの昭和基地で一年間、二匹の大はだキワイフと共に何んな夢を見たと思

う

少年

おの太郎と次郎下したのか

中年

ほら（キ紙を渡す）

少年

何ですか

中年

キ紙だよ、太郎や次郎の

中年

三郎や四郎や五郎は？

中年

元気だ、六郎も七郎も坂隈りなく皆さん全跡元氣だ！

少年

（続む）太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ 次郎を眠らせ次郎

の屋根に雪ふりつむ

ヘト

フリサードが吹雪いて音樂、織の上、若しくは花道、頭に雪玉置い

た柳亭の木連が立つ

柳亭

三郎を眠らせ三郎の屋根に雪ふりつゝ 四郎を眠らせ四郎の屋根に雪
ふりつゝ 五郎を眠らせ五郎の——

少年

何だあへつう

中年

南極の三郎や四郎だ

ト、並べばそひか頭に雪を被つた老客達だと行る。いや 雪の如き白髪な
のか

老客

世の中にはぬ、夏に死ぬ子と冬に死ぬ子がいるのよ

老客

夏に死ぬ子は?

老客

夏の川が見る夢に繰ハラの

少年

喜さんだ、中年の次は喜さんか

中年

格言だ、格言によつて道が開けたんだ

少年

何だア?

ハ 中年

老全

全ての道は老母を通す

人まあ失礼

中年

妹ジ・僕の道はこれじゃない。

(ト、少年 ハンマーを川へ投げ 走る)

中年

ハンマーを捨てたなこいつ

(不気味に笑う)。

老全

南極の話をなさうた下さい

老1

増田 半前らは何だ

中年

片手が聞こえたもんだからあたし達

老2

彼に乗りきたんです。

老全

彼に乗ってるんですか

中年

老3

老全

絶妙調で可

かが彼に乗ればいいつだつ弊めよ

中年

(跳とばして) では婆さんが駄ベキお駄等ジ

老全

あれ山山(阿セル)

中年

老婆が娘頃していふ。

老4

道を尋ねてまろし御座んすか?

中年

姥捨山への?

老1

いえ元老院への

中年

元老院、おれ養老院ですか

老全

口一つです。

中年

口一つならば右半伝いたへん。あのひとうしちゃったんです。

(ト、見ぬよ老婆4、放心状態である)

老1

時々ああして精神を無し流し天国をさ迷うんです。

中年

あ、オールドジーか

老全

え?

中年

恍惚の人でしす。

老1

この川は若しやアのユリウスが

中年

ヒのエリウス?

老1

ケエザルです。ユリウス・ケエザル

中年

あ、シトサ一ね

老1

が、ローマを目指す大遠征の時川辺エキニナロリンをやめて遊んだと言
うあの川ではありますまいか

中年

あいは金玉館モルビコン河

老1

ヒカラヒ?

中年

ルビコニは時空の彼方で哭てる

老1

(悲痛) 話合ノ聞キました

老1

(悲痛に泣き伏す)

中年

一因ツア一あのー

老1

歎えて下エリ。私モラの彼方川を

中年

畠田の流域にて最も麗ヒテムズに通じ。力の河ヤツコオニ河を渡りま

可 この川モレバモルビコンの水を渡るでしょう。

(ト 差し出さ中年のキをつかむ老婆)

老1 田舎線向途中下車。運命線煙草乗車。結婚線は脱線模様
中年 え?

老之 感性線が強くなりました、頭脳線はキセルですか
中年 離せ、離せよ

老ろ 買うてあくまでも行主倒山の将来

中年 買って化りに何を売つけるぞ

声 売りません、何も売らないんですよ。

中年 クの声は

(ト、川崎の奥様、薔薇を一輪もうこ)

川崎 薔薇です

中年 バラ? こまきれか

川崎 薔薇の花がます可

中耳 花か、口一ではらは嫉妬やきもち、カロライナなら危険な恋だ、
川崎 いえ、夏に咲いたヒマラヤのユニーク、
中年 ユニークの花言葉は?

川崎 云々を美しハと言わないでね、
中年 願まれたって言うか、花言葉を言え

老

ク川崎

無礼者、片めが花言葉だ

無礼者がか?

私を美しいと言ひないでか。

ではたゞ今改めはさい、自惚しか冗談だ。

へ薔薇の花片を大切て吹く)あゝ、皆さん風向きが

変りましたか?

成程風変りな奴うだ、

しまにま通りの

えつ

風度り、片めを紅毛悪眼であいはエキセントリックと言ふでしょう

するヒ牛前ら

片の通りの

まだ何も言へばい、

すると牛前ら、人を喜ばせてゐるのとこれ以上本領に迫る叫びが要ります

しょうか、金での事更は原因によて尋ねま可否の確率をもて、ならば人の正体も牛前らと呼ひだるの前に立のすと附れ寝るんさあすす

するヒ牛前ら

中年

川崎

中年

老全

力達

はり、今の通りだ

中年

あれよあれよ

ト 音楽 老婆達

あれよあれよと言う間に変身する、主婦達の奥様を

中年

あれよあれよと言ふ間に変った、三度ほさこう、すると牛前ら、

奥様方

今の通り

中年 ここにあ晴れ外れウカ向うしようかと想い悩むウタの高齢は轟うちやい
ませんや、占いてえはら新宿へ行け

川崎

新宿?

人生相談の太力

私達新宿の日暮づざめません

では曰生の小母ちゃんか

本屋の花も自転車で運びません、餘めんばよ

ぬめにくはないの?

餘めるとしたら?

18

中年

川崎

中年

川崎

中年

川崎

中年

川崎

夕川崎

中年

奥様達

ラーマです、雪中のラーマ（出す）

バターケカム

川崎の奥様ノ

（ト、音楽は唄へ易占トリップ・リンクス♪）

奥1

川崎

奥2

奥3

奥4

中年

奥1

中年

奥2

中年

奥3

中年

奥4

（2ヒ）川崎のお母さん
（3ヒ）川崎の叔母さま
（4ヒ）川崎のお姉さま
(1ヒ) 川崎の妹よ

週刊紙の綴じ込みヒでも鑑テガルを釣テなさい。

釣るんはア男心よ。

釣立向うする

浮世ヒレウ絵の本を数えてあける
悪いは迷惑は信じないんだ
あらもう違ひけよ

中年 何?

川崎 ほら、水晶玉が光り出しだ。

中年 (見て) 他の人生を駄洒ちがうだな。

(+) 光る水晶玉をかこむ異様さ

奥1 初恋は?

奥2 ニキの冬、日向の縁側で

奥3 ませてゐぬ收、相手は?

奥4 久眠していた蟬の幼虫

金鳥
んまあ?

奥1 名前をつけせり

奥2 何?

也千

奥3 蟬の幼虫に?

奥4 ニキの頭脳にしづき上出来よ

20 奥1 慢い命の過しおも様々收

中年

憾えてない私は何も憾えていない

川崎

全ての事象は原因によって導かれて可歎の確率をもつて、それはまた結果を逆に辿れば原因に至り着けると言うことでもあります。ここに完璧な法則が提出されずなりません。因果の系によって繩羅と綴られれた世界とは確率と必然の支配する何と美しい論理展開でしようが

中年

(聞いてられない) は おい、俺の未来は何んな具合だよろしいんですか?

奥1

スバリは駄目だけ 暖昧に言葉を濁して

そうですね、アヤリしていますね。

川崎

例えは酒場女の著れた娘の軌道から、純潔を守るモーリスをこじ開けた。チコ玉に至るまで全てが法則を忠実に生きるでしょう。科學はこの確率と必然の世界をラフラスの魔と呼ぶ

中年

ラフラスの魔? ノウ、そして我々は自此を占いと呼びます。例えは来ぬとも知れぬ人

川崎

を占う無邪気な花占いにしてからが、占と言ふ表現なのだ。複雑な様で單純な奴だ。蓋られた花占が必然的に来るとき告げた人が偶

中年

然に来なければ、純一はバーはないでしょうね。

川崎 来る事ないは偶然でも花片焼る石キは必然よ。

川崎 では左キで薦てやろう。

川崎 中年

完璧な論理の前で現実などに口を利かせるな。

川崎 中年

口をつぐんでしまいたいが、必然として私はそこには居ない。

(ト) 中年逃げる、「金をねつけて」「見料を踏み倒す万葉集の罵声を尾目に続

け川崎)

川崎

表現不可。マルクスも言いました、表現せよと、占いとはラフラスの

處が取りしきる世界の文學的表現なのだが(奥様方)、大丈夫よ、私は
大仏の五本指ほのだから。

奥1

あら、また水晶玉が

川崎

視つめ玉しよう旨さん

23 奥1

川崎

何が見れるの？

奥2

雪が降っている山

川崎

氷の世界に

屋根裏部屋の行李の中

(ト、今こへ少年、走りこんでくろ)

少年

ああ、視線が入り乱れてるな

奥3

（へさ迷わせにまき）だあれ

奥4

人の視線に土足で踏み込むのは

少年

五の

邪魔しないで、視線を越えてるんだから
死線を越えて、ではデッドラインを

大股広下で跨ぎます

ちゃんともう始まっていたのか

奥2

何が

少年

戦さだよ、合戦が始ましだは、人を退かせたが

奥3

あんた外人部隊?

少
年

助けに行かなきゃ

奥4

砂糖の恋人さ?

少
年

僕の一人称さ

奥1

一人称?

奥2

李たお名前ねりの娘

川崎

一人称ふんづわまえて私ト鏡ともものにする氣?

少
年

失礼、御免

(ト、少年走り去る)

奥1

行李の中で何が戻っているの?

川崎

ええ、脚踏むちが

(ト、裏帳篷、去って行く、水晶玉に奥を行李が開いて、一人の姫と老人が
出てくる。月の砂糖となる)

(ト、追つても行ちより、一人のケザヒニ匹の大、三人組は剣を構っている。
危機一髪の二人組、殺陣、
やがて次第もつかぬまま走りゆく)

少年 22オまでK22人を葬り去ったジリーがモドの銃弾は彼の左手から放れた
ベンジャミンは左ギブンを挙げ、モナリサを微笑ませたのはダヴィンチの
左手だぞ。若しもヒカリが右利きなら天オとは呼ばれずスペインの山
千清だぞう。ああ、さ迷ひ視線ヒローマが見えない。

(ト、両び橋の足をかける、橋の上ヒ再び中年)

中年 もしもレ

少年 あ、天の声に蒙可耳はないが、
中年 (金色のヘンマーを持っています) 君が川へ落してハシマーハこの金色で
はありませんか?

少年 いいえ違います。

中年 どうですか(一回消えさせはこの超合金のひすか

少年

中年

少年

中年

いいえ違います。
へ一回消えても、この銀色のですわ。
いいえ、それも違います。
ええですか。君は大変直な子だから豪美にこのおもすびをあげまし
う。へ殴りかかる

少年

中年

少年

中年

私はね、レバ利の様にしつこい男なんだよ
待ち伏せなんかしゃがう。

偶然だよ偶然

偶然で二度も出合つか

では必然だ。俺は川向うから川うちを睨みさ迷いこんできたお前の視
線を左牛で終止と捕えた。そして二度橋を渡つて二度ともお前に出合った
白の確率だ。若しかして俺らは八百年程も前に京の五条でデートし
てたんじゃないどうか?

寰口でハ百回も同じ目を出可以上にあり得ない確率だ。
ところがいるんだ。ええあり得ない確率をやる奴が
女の神様かい

少年

中年

少年

凶中年
少年轻

悪魔さ

あ、熊が可か

俺の幼馴染で、マツス宝ルで名前は悪魔で、こいつにかかるとほ、冷
蔵庫の中でお湯が沸き、太陽は南へ沈め、虹雨が空を駆け、電話帳が
吹き出でてえ奴だ。

子タラメは奴だな

いつもは屋根裏の行李の中に住んでる
根が増いのぬ

兄貴の方はラフラスで律義は働き者だ、せせり兄弟仲が悪くては、夏虫
して大工やつるよ、
メのハンマーで？

御明算

この人左利きなんですか

勿論、時にこんなもん鳴ぢた

あ、少軒

お收え字だなあ

返せよ、僕のキ紙だ

中年
少 年

ハンマーへほりついでやがた
川下へ流したキ紙が川上へ着くなんぞ、こもアヌスワルの要細いか
駆馳の導た様は字だ

関係ない

パンツ

え?

中年
少 年

中年
少 年

パンツ若レモバンコクの人ガ関係ないヒ一言云だらばオレはパンツ
のこと、何故ばらタイの言葉でカンケイとはズボン、ナイとは何々
のト、日本カカンケイナイニズボンのト、可はめちパンツと言フ意味
になる。乞だか、本当に関係ない謙このはこういうのを言うんだ
オレが一体何ヲレモ

福善だよ福善

週刊誌の一口メモが知識か、免に角あんたに縁はない 返せ
果しておウかは

え?

中年
少 年

この偶然も必然に出来ないだろウか
ビうしそ

28
少 年

△中年

この下牛壹を字で

少
年

ほつけ

中
年

腹^ハ立つ

少
年

え、今度は何語だ

中
年

私はぬ、こうして牛壹の家を見ると無性に左指が魚えくり返るんだ

少
年

ぬ、片の指

ト、大音響が轟き、一瞬真暗になる世界、すぐに明るくなると中央の都

ろの乘の上ヒ、巫女の衣裳を纏た姫と老練な娘めめている。七八
の織姫かペル（多の妃か）

少
年

姫

アラメラハオーノタテマリリルレ

ぬ、向むといフラ。

（翻訳しき）私は叫んだのは向處の野郎だ、と申させてます。

辛爾たら、私カク姫

中
年

左指でしづぐてる。

少
年

タマケニハマスタモサハマスタマヌ

賀田では無いか、と申されました

雪田 老人
雪田ではばいか、と申されました。
私のゴヒキ尊しき牛に御足劳顧い幸甚痛け入ります可姫

女嘉齋
人井

少
年

私のブヒを卑しき牛に御足劳願い革甚痛け入リま可
トコヨヘニイネラムニタヤスタコラサ
某方も長の放浪誠に御苦勞であることよ。

ヨリには人達が甘死

增
四

黙つてろ、我々は今左半の王国を叫ぶ者だんだ。
人のひん御尼左指ひ。

增田

この左半の法則でさ、お前鉛筆を握るの何本指だ？
ええと（考え）五本

無事ちゆめ

増田、本質に迫りなさい

此乞御覽下士口（手紙之後可）

(見て捨る) 増田 貞吉は迷路パズル

增田

辛爾住ら娘、こねは迷路パズルでは御座んせん（画び渡す）
ですキアニギルタールの壁画か？迷路がんすうれは

卷之三

もじ? 戒律、ヤズルの正解は丸丸州の地圖か、サ倉は何處ぞ

30

卷之三

卷四

九

增田

七

增田

老人

增田

31 老人

姫 日本語です。

木 ホニヤニヤニヤ

老人 姫 酒井

これは何うやら日本の言葉です。

(極度に信じられず) 馬鹿なことをこのが卑しくも綴りうだと言ラ

ルのか

老人

私も信じてあります

姫

馬鹿レクモ怖ろしいことなりき、フラン、御祓いだ。祓い済めよう

ト、姫、老人のぬもアラトニ祓い給え。ばかり牛徹を祓い始め色

少年

一件何ういう奴うび、

少年

聞けば此處は大船のせせらぎ、弘法大師が何時こんな牛徹いを許した

んぢやえの？

（気が押され） 弘法様と放達なんですか

文通してたんだ、シふみ（恥らう）
フランナスの歌舞舞めせて、

カリ多ヒ日本でさ、

少年

アラ

少耳

アラ

少年

ギリラ。僕はメの隣を経て複線をさ迷めせちあせんじ
祖先をさ迷わせる様は振り方をするからだこん畜生
(ヨリ返りうとして) あへ何うしゃうたんです、

何ズ

お姫様

ト、姫 目を開いたまま石化して いる時刻

壇田

アラ

少耳

アラ

え?

眠るんだよ。

イカリをしすめてるんだ。

ああ 精神統一か

眼の國に着いたから枕に鋪を枕めんじ

少耳

壇田

まさかの

まさかの、先の前にはこいつが起きてる様に見えるのか? その上つて目
を見開き口を半開きにしていふことでも思ひ方のやうあ、さわいがま

本君の國では起きてゐるか?

少年

きまりと、はい

中年

目に見る現実など何程の眞実だと言うのだ、今今まで大おもと思つていいもののが実はお父さんぢうせり、酔払いの口だと信じていたものが実は

は愛意深い女ぢうせりへか年駿の二度や三度君とも御座んしそつ

酒井

まきりと、御座んせん。

酒井

まじでこは毛牛の王国だれ

酒井

まきまでこは毛牛の王国だれ

酒井

まニシエン もうすゞ眠りゆなしだよ。

酒井

まもまき

までも見てたんでしょう。

僕わ?

いえ、姫が、時々は体の方も、こうして夢に錆を下すんだ
へ信ひらへど、眼の航海は長いんですか?

か此これもう四百年になるかな

一棒何歳なんだこの人は

無れ者ノ

酒井

まもまき

酒井

畠田

力姓に年齢を聞く時は先づ自分の年齢から免免りなさい。と教えたが、
とかお父さんは、
へ慷慨して、もう結構。

少年

増田

少年

酒井

酒

及

少年

酒井

酒井

少年

酒井

畠田

少年

アラ

はつへと雲がついで、日光で、この日光ひやんしたか
今日は取りあえず間に合めせとこう。
日光と言えば、
言えよ、東照宮
東照宮と言えよ、言はずと知れた丘利きの名匠、丘益五郎曰く
左しの平井政之介
左吉曰くはつ、若しやこの眠り姫は
真夜の終りだた、折しも左は江戸城改築の大船団を擄ててしまい、幕府
の旗を斜窓に進め、都を廢する。

幕府が姫を殺し辱つ。

アラ

フルゴン、左の行為は哲として知れん。が、約束の地にてさうに一匹セノンという名の眠り猫を彫り上手たこにはさらに知らぬつほい。恋して駄、た京人形大機の虎に魂を入れ女房を始かせたといつ甚五郎。眠り姫セノンに芸の二フ三フ仕込ものに何經の二とがあろう。だからは少耳

少耳

(姫を見て尼が急に呼ばれて) はい
ここで会たが百年目だ。

少耳

ええ、

酒井

ほら御賣、萬の繩子ヒヤドカラ流れてきたタ旗の造花が四本綴だ。

(ト、見れば四本のタ旗、昔を立て次々と繩子に吸く)

増田

タ旗の花言葉は、夜。しかれ造花となほ転じて、百年の恋とする。されが四本、

御破算で、四百年の恋だ。我々はあいを見て想つたよ。今日が四百年目に
んじと、

アラ

四年目の今日の

だから眠りを解いて呉れるのは君しかおらん。

猫の眠りを?

猫なんか居ない

猫は姫ですか?

姫でもない

乙も、今しがた確かに猫だ姫だと

耳に宿した記憶ほどに何程の眞実が微笑もう。例之は志田行つ時雨の
内音をナリ旅文換の呼び声と想い、周章てパンツキはさき換え田舎の母
さんと電報打たなうこと、誰でも毎日経験してることだ
してたまるか

句

少年

畠田

少

畠田

少

畠田

あんたナガエよ、う言うの
之を見て俺だけ? 知らなかった。
畠田、いいんだ 話を続けろ

この方は猫でも姫でもない、
その他の丸る物のひもない、中間なんだ

三

三傳

なり。片手なものはない！あつらの如くにはいとも言える。だがす

豫て言はず、ある

少年 嘴えて言うと?

卷之三

頃まで、羽化立候つ瞬はんば、今現在この寝い殿の中で、あてほきの如くの姫と姫がはいまざと、梁い眠りの物語から目覚める等の晩を待てらうるるんだ、どうだ、親子の縁を切たか

少耳

感動した

片山、目が覚めた時この人は結局なんぼんですか

（おんはことはからん、全ては名次オビ^{ナシ}アミ、目を覚まさせておくれ
とほしょくか、みほをきょしうか（姫を眺める）
キスして（うづきぬるだ）

雨
集

語訳して欲しいんだ、白雪姫の様に
いやあい

アラ

線の、目覚めの口付けを、ナレドリ一緒に寝起きのお茶漬けを食おう
桃色遊戲よあづけ！

（へ少年の腕を取り）この愛情看め！

ら、毛畢は嫌いだな！

と言つ事がてます、ト

都に面が辟る如く

酒女アラ

増田アラ

増田アラ

ラニボウガ嫌なら、ヴエルレースでどうぞ。されども駄目なら、悪の草
ホーボー・ド・レールか？

大も歩けばホーボー・ド・レール

直情型の獣め！

（ニヤリヒ）間接的が好きか？

あ、嫌な予感

増田少年

（腕を捻じあわ）関節さん、関節さん、この手を素直にしておくれ、『イエ
イエ』れは出来ません、ええ、小癡な、ギョウ。

（苦痛に呻いて）止めて呉れ

増田少年

（身体に毎日百年目なんぞ）百年たらたら此處へおいで、男の子の接吻で
こうと眠りも解けるひょう、

（左側）

38 少年

誰が言つたし

福子の夕顔が言ひました。矢張て我々は還つて来た。ここを參ったが百年

卷之三

どうだ、キヌ耳が

みの

片山ともし收えか

タヒヒ

三

何を書くんだ？

遷次左典つてゐる心が可

三

7

1

元

氣が走る。

1

一
九

ビウレル 鶴田君

卷四

廿四

名前を聞いてはいのと呼べば仕事

卷之三

姫がこゝに来たのも、四百年前に川端が流れて来た君の牛絃を読んでか

片ウジ牛紙也、牛紙を返せ

正山子

エスカル・シモンズ

この四百年、世界の範囲をさ迷んだ。二山位の早晩、尼亞もあるか
くら、仕方ない（諦めて姫のちへ）

(小突く) 嫌々やるは

(焼菓子) めあ姫しいば、キスアモニ

卷之二

句曰子ノ

仁丹だ（仁丹を渡す）

八十、少年、梧吻する、悲鳴の様な音撃！

少年　嗜みつきやがた、

(ト、姫、コートレムの如く動き出す)

フラン

さあ、眞実の顔が鏡を解くや！姫か猫か妖怪か、あつなきが如きもの
の目覚めだ！

姫
(祝詞を唱える)

増田　心直しがあんまり悪かったと思えない、
少年　口付けの仕方が悪かったんだよ、どうか
フラン　気にするな、増田、お尋ねしてみろ。

増田　は、姫ヒノ卒爾だら、

姫
(祝詞を止める)

増田　動物ですか、植物ですか、鉱物ですか？

姫
(十穀越い祝詞)

片山は家の中で使つものですか？

- 増田 酒田 姫姫 (祝詞 ハマニシモ)
 赤い色と結びつきますか？
 (祝詞 ハマリ)
- 増田 姫姫 (祝詞 ハマリ)
 キムでやるヒヨリ一層気持よくねえますか？
 (祝詞 フルタシモ)
- 増田 成程
 ハ年 分たんですか！
- 増田 増田
 ハ年 分りました、いいですか皆さん この方は
 (ゴクリヒ喧をのむ) 方は
- 増田 増田
 ハ年 口の巫女？平凡な事実だ！
- 鶴伸 (少年) 真実とは知りしきえほ平凡よ、でもこの方は只の平凡な巫女じしないの
 少年 平凡じぬければ
- 増田 明星をす、(週刊 星を出可)
 少年 嘘つけ！

43 酒井
轉曲

説明レアカようかづく平凡に、御覽。今週号の週刊明星の裏表紙を
巫女は巫女で、御存知、曰べンの巫女名なんです！

今週号お便りは、横浜ヒガ住いの森田由美さん。ヘタな字は王八つ
きひばながむ。

（レ 番葉 週刊明星の裏表紙より、横浜市の森田由美、出でくる）

森田 ああ、半年前外中國テヌーの時でした。経材の自信があつた故事のテ
ヌトで三回もハリだんだんと可りんことはないと先生の所へ押しか
けたら、「どうした？」この故事は六に見えないが、一々書ク。本当ヒ六
に見えないん可り。ノのうえ故事だけではなくお前の字は読みとれん
またまたミックノの日は読みませんでしょ。翌日、親友の若子さん
に相談しらう紹介してくれたのが、曰べンのホールベン習字会さんで
可。

（別の場所では）

一唄いながら出でてくる、オオシの花咲く唄（つかとらしく日記を説く）

始めて君を ラニララン

チシモレ お嬢さん

はいはい おじさま

アラ 何か落ちましたせ（ガラ）これは乙女の日記じゃないですか
アラ あら いやですわ

アラ へ聞いてすぐ閉じる）ムフフ

（キヤッと言つて赤面する）

アラ 姫 姫 アラ へ聞いてすぐ閉じる）ムフフフ

（ギヤッと書いて裏画する）

（開いてすぐ閉じる）ムフフフ

（ギヤッと書いて青面する）

アラ へ聞いて見る）オオオ（感動した）

アラ 姫 馬鹿馬鹿、おじさまの馬鹿（力まかせにアラトニを殴る）
可かうしい事だ！何アキレイな字なんだ お嬢さん！

姫

ホイホイ

フ ラ

姫

侯、僕と、結婚して下さい（花束を差し出す）

フ ラ

（ニ 鳴きしてから）やつたせ、あたしひ、曰ペニフボーレハニ習字を寫
たんひす、四百年の歴史があつて、先生方も超一流をろいなんひすよ
成程、教科書はどうとも使い易いバイニタ一式、お手紙の書き方や、漢
字の筆順まで教えて呉へるんひすね、

フ ラ

巫女
少 年
アンドリウス

一曰二十分の練習でハニ字検定に合格ひまるのよ、

あんた方は！

フ ラ

一級合格者の四割が曰ベンの出身者ひます、

森田

早速勉強のあい間に練習を始めました、今は文字を書くことに可成自
信がつきました、先生も二つが本当にお前の字か！と吃驚される程で
す、お陰で数学で勿論國語の成績もぐりんと上がりました、綺麗な字
が書けると言うことはとても大きは自信になります、

(ト、森田由美、裏表紙の世界へ還る)

アリ

少^年

三人

少^年

お分かりでしょか

あ、あ、あんた達は!!

曰々ニ可^ハ左キの法則ヒテ爽イウヒして立フ

(完全ヒ動転している)——ジル めの 今までの日 全部ビミネスの世

界だらのがあ!

さあ!君も入会しよう。

伊^ナ井^タ女^性

少^年

結構^ハズ

この申し込み葉書にお名前を書いて、今すぐ郵便やストへ

アラ

少^年

何^ハ、实物大練習書フモ上達のしおり^ハが無料でついてくる。

消えろ 芸能雑誌の裏表紙の世界は!

巫^カ女^性

ハキ紙^ハ見^カつづくと汚^ハい綴^カり方^ハ

少^年

返せよ 王子の夢が初めて右手で書いもんだ!

魔^カ術^ハ

だから入会し^ハさい^カば

嫌だ!

少^年

おい、今入会すると、素敵^ハボーリ^ハニがもらえるぞ

46

畠田

47 少年 徒しくけい！

アラ 言でおくがせ、我々は只の日ペニジぬえ、全国の左利きによる左利きの為の日ペニジ、右利きが表の日ペンはの如々は裏の日ペニ。

雪田 入会を拒否すれば、全国に猶存している隠れ裏日ペニの信者達が剽窃

ヒしてお前の左牛を狙うことになるが、オウジテミタガ

ホラ、去年まで君のクラスに居たモナの貢者君、確か三丁目の角で大に左牛喰まれた山口え。

少年 ああ、去年の冬休みだぞ、ほ、若しや、あの事件も――

三人 (一無意味ヒ笑う)

少年 (一瞬首筋が凍る)

さあ、エニ寧モ誓導して四百年、確實な上達をお約束する、裏日ペニ

裏日ペニの門を叩こう、叩け！

叩け！ (左牛の法則で威圧する)

み、り山、何の呪いです？

四百年の伝統が生んだ、左牛の法則さ。

少年 フレミニンケさんのです

力と磁場と電流に限らずすべからく世界は三つの方向によつて支配されてゐる。いわんや習字の世界も方や三本で間に包めせろんだ。

（威儀をもつて）問題は、片の三本がどうあるべきか、と言つて可す

指の屈度、力の配分、そして美夢的見地と人体生理学

これらを研究し尽して我々はついにボールペンの理想的握り方を発見した。見ろ！

何て差しいんだ！

もうこの人は踊り出しある左キの虜です。まるでアニデルセンの赤い靴の少女の様に

もう百年以上やってろ！（籠ヒ集じてキ紙を巫からむたくる）

野郎！

さよならビニ克斯の世界

酒井

蜘蛛の道をキ緋をどうする気

少 年 両手川に流します

増 田

馬鹿がお前は、いくの家が蜘蛛が川で、魚が片ん可遊路を食うか！

少 年

物語の川にキ緋を奪うものえなければ、僕の早熟ヒアドリできほいん

だ。

方 ラ

どうせまだ戻ってくるだけだぞ

少 年

(聞いてない)——初めて書いたお寺の文字は、まるで迷路の様でした
覗つめる程にくらりと懶けて、複線もさ迷う僕の旅が始りました

(ト、少年、川下へ走り去る)

巫 女

(祝詞を唱えている)

増 田

やめんか大根！

方 ラ

矢段でしらぬ、増田さん

増 田

半前らの芝居が丁度すきなんだよ！衣裳ヒダつた割に受けなかつた、

巫女　追いましょう。

曾田　カウレモショウ

(ト、曾田達 川下へ進う 川崎とニ匹の犬、カウニセラーの世界)

母犬　一曰中部屋に閉じ込もりましてね、何か書いてるん可のよ、それも

下牛糞だ、もう蚯蚓が這いた様な字で、

川崎　字はきれいな字でしたが

母犬　右キで書けばねえ、最近向こすか自分のことをきづらうだと思いつんで

ろんがすの、もう向立するにも左キで

川崎　サラスホーで日記でも綴りましむか

母犬　いえ、あのチーク紙は書けないんです、一人舟立認めようとする

何でも左キが乗りつくんだりウケ

川崎

で左手は何を書いています

父犬

お話です。三人称のお話を朝から晩まで。もう行李に一杯もたまりました

川崎

行李に一杯も、たまりませんねえ

父犬

いえ、たまつたんですね

川崎

それで行李もたまりかねたと

父犬

たまげました。

川崎

太宰も、太宰もそうでした。左の太宰にお育てなさい。

川崎

こないだこつそり虹の跡を辿りました所あれ全部昔話なんですね

父犬

有名な童話とか民話です

川崎

書き写しましたんですか？

父犬

でも読んでみると全部違つんです

川崎

何が？

父犬

有名なお話の結末だけ変つたり人物の名前が違つたり馬鹿ですね

川崎

え？

父、犬
川崎
へ無視して行李一杯に物語の模造品ねえ
母、犬
氣味が悪いもんですから こないだ家中の物語という物語を焼いてしまいましたわ

川崎

家庭の焚書ですか！

父、犬
丙親の愛なんです だから焼きました 家中の本を 川向うのゴミ箱
めぐ 馬鹿ですかあ

川崎

まあ あまりそういうことは……

母、犬
あ、最近時々、夜窓から抜け出して行くんですの

川崎
川向うへ？

父、犬
ローマへ

ローマ？

父、犬
川崎
あの子がとう言つてたんだ 川を越えてローマだとへ川崎につかつか
かる)

川崎 では小野君、私も行こう、箱庭へ。

小野 でも、大丈夫かしら、

川崎 何が、

小野 あんな砂の箱庭で本当に治療できるのかしら、白だから単純可かで、全ての偉大なものは単純である、と言ふ人がいます

川崎 小野
小野 フルトヴェンクラー？

川崎 そう、ヘルマンの血がフルトヴェンクラーの治療薬をしてどう語らしめた、しかるに私は何うだろ？ か、小野君、

小野 何うなの？

川崎 大知民族〇型の血液は私の右キをして離らしめる、全ての単純なもの

小野 は偉大であると

川崎 クレハが間違ひの始まりぬ、

川崎 逆もまた真であるならば、眞もまた逆ではないんだろうかぬ、洋子君

川崎 真理の股が逆さまになるしですか？

川崎 ほろかもしれん、ならんかも知れん、だが私は知りたがつた、微妙に描

れる人間心理を

小野 びは、脳波へ

川崎 うん。

(ト、二人去る)

入山撃て、少年)

少年 町内の曲り角と云う曲り角には大がいと、いつも僕の左耳を撃てる。

(ト、父犬と母犬、毎日込んぐくる、音楽)

少年 し、ち、めぢ行けよ！

母犬 ガウ、いい駄目えすかめあん、少し噛じらせろよ。ガウ

少年 あ、う行までは

父犬 が空、めあん口も子こは。

少年 每々さ

父大 息子の牛は一味当えんだ ガウ

少年 お前のせんかにやられてる暇ないんだ

母大 ガラッ

少年 ああ、一人舟を渡さなきいけないと言うの。

母大 一オでいいんだ。もう四日も息子の牛を喰じてない ガラ

少年 あち行ひてば！

父大 行て向うかる

少年 え？

父大 お前はいつも牛うねて何かをあらへ追放するんだが

母大 だが、あらへ行つた者ヒトも、おまはこちがめめヒロるんだが

少年 ええ、

父大 分るがおまん、だから追ぬめれ二者は必ず連て来るんだ。

少年 何うやつ？

二五 牛糞と呼べさ。

少年 年紙、僕は二人とも工書きがないが、

母大 お返事、持てきなんぞ 四百通目の

少年 白山羊さんからなの？

父大 りうさ、お前今子云の三百れ十九通乞紙ますと食べだろ、

少年 僕の一人折は黒山羊さんからなのか

父大 だからな、与産は食べすと飢ひ多くれ

少年 お前達 邪魔多か

二西 わ々は 切身さ！

(ト、音楽)

二西 ほうら、想鵞りだ、船せぬいをだ、

少年 船舟は、何處でしらけ一云みゆとする

(ト、弓を筒貯めさせの事、箭の上ヒ立つ)

少年 誰の

女子 牛紙です。名に追放された。恋人。

少年 ジヤ・ラブレターですか。

女子 遺してくる為、恋人は牛紙になりますの。

少年 何うして此處へ

女子 タブラ・ラウ

少年 はあ?

女子 タブラ・ラサ・ラテニ語です。意味は白紙。私とさう牛紙を開封する
ヒ、三枚の白紙が入っているの。

少年 キリストが生れる時は三人の博士が来て来たけぬ(聖書をほじる)

女子 あれも三枚の白紙でした。幼な児イエス曰く少ひ満せんがんばれ。

少年 じゃ僕もかもう。

女子 まだ口余白とも認せます。

少年 え、何があ(笑)聞いていいを)

女子 タブラ・ラサ、君が君の三人称といふ事物並無んかい石間、僕達は朱

自という趣を放してたのよ。

ウ年 よはくヒユララサツアーナルバモ

カニ 僕立ちも、かつては絶事無せんさす。君が年白へと追放するまでは、
ウ年 僕が追放しむフ。一既ケキジリセ

カニ 君の親族がさ、二の四百年といつ國、ついヒ吉の親族は、僕達、吾等を
読みではくれぬガセメ。

ウ年 でも僕は、一君の事を書いヒエ、新季ヒ一枚、かじかんヒ左手で
カニ 何うして左手ハシせんビ！

ウ年 え？

カニ ホラレエ右手で書いてくれば然そノ、何故やくせは左手で僕等
旅立三人組の行李ヒ開じこめせんビ。

ウ年 (左キヒ) お前ミタマのせいセキ、この最難息子め、ペツヤツ、馬鹿馬鹿
カニ でも、セヒ勝アセ。

ウ年 (上の空セ) なんヒツ?

カニ 較いヒ、名のやく空は、物語もヒヨーとの難易。

少年 元一ほんじよ一行李の中は……

女子 行李の中は出来りこないの三人姫達が、全員御隔離だ。
少年 が——可哀れうに——何ア奴だ！

二匹 黙れ、三文作家！

少年 五月蠅、大ニラ！

女子 玉牛箱を開けない鶴島太郎やおぬし悪目を覺可取リ姫に、何の未練が

あるんだよ。

少年 一教怒して一せんでも可、この上師の開口

女子 書いて致しいの

少年 背中を！

女子 いいえ

少年 畏でもしたがだけ！

女子 僕たちヒイフ、三枚の白紙に

少年 行李の中はきらぬ之間だ！

女子 あんたの

二五 もみじは

少年 一石年は……

母大 万前の少年で白旗が轟くふらば
父大 外れせ庵たちの血統表に打たんば

少年 血統名、犬の？

女子 人して、僕の

少年 君の？

女子 忘れたのが薦帳者、娘はお前の永遠の恋人を失、外れせ庵の血統表に
少年 みの、わキカベニ立様ると 記録がさ迷いだすんですう。

父大 ご迷わせど多よかろう

少年 親親だけならまだしね、母は恋るは娘はみるるは、腰ほくかけうは
三人 憐熱が足りない！

女子 わキカベニ立様と記録のは一人母をみし想はえてからし。をしてこう
何だて書いてやろう。

母大 一人娘の成る手は歓喜もありんつ

少年 多分ローマヒ

父大 ローマ・何故

少年 ローマは右キの本國だ

女子 ――昔は――書けに早いいか

少年 え?

女子 ジの早熟な右指公、君は一通の手紙を書いたんだ

少年 憶えてぬ之ばあ――

女子 馬鹿、何時まで片んはやくさは左キにしづめついてろんだ。ローマには
して何もありし日はいしな。知つろくせヒ・太郎・次郎!

(ト、大達、少年の左キを牙をかする)

少年 危い!

女子 左キを切り、君の鳥を外、三人組の左キを切りやろんだ
65 少年 や、やはりこれが目的だな

白子 二いつらは切年生、門縁に廻れた。年を取る。ゆきと
川崎 くそ、曲り角から抜けられないよお

(ト、少耳、絶対絶命のビニキ、四人 LM.

花蓮より白衣の川崎どう、カルテ互換まで)

川崎 斧轔を見送る、路旁の石ヒ志心を能り、重篤の禍をつくことさせな
いでしょうか?

白空 ニの大達日?

川崎 この子の両親会う。

白4 18とママね

白子 をタエ喰い手切ろうとしてます。

白4 梅が咲くわね、

川崎 根琴くさが三端正しようヒシヒシめしいさす

白1 夫がつ。

川崎 兩親が

白三 でも、何で大びんどう

川崎 記録は?

白之 一カルテを見て、ええと、丁度外の娘大に左耳垂まれてますね。

川崎 断内の曲り角です。

白之 ええ。

川崎 成程、怒るつさすがね。

白之 このおのろは?

川崎 永遠の恋人とあめせてましたか?

白之 りんじゆれ

川崎 ま、めんひもんどう

白之 何か記録は?

川崎 ヘカルテを見よ、ええと、五才の娘、娘のセの年が癌を発してますね

白之 ゼノンワ

白之 父の年が可笑がつてたねね。

川崎 三元、あたさ進したい色々、難て

白玉 さも、大丈夫でしょうか

金剛 ひにか

白玉 この手本を手を手切らぬから、並べても並り口んじない?

川崎 おれも良い方をう、こうして勝敗を決する。急いで口外をまへん。

白玉 一速く見せて、あの手、人の色取り出しだわ。

金剛 案の?

白玉 行なはい

白玉 多分外の人前で手を手切りと見ろんだ。

解説

白玉 お門さん、目玉、目玉四の機機として二の筋並玉筋筋を繰り返すよ。心

理の極人はこのミニニキヤの串に全て豆蔻子豆蔻子なくて口口りません。片端片端を見逃ごす、筋筋の力ヒ志志が競り、重病の筋をつつくことだけかいさしう、わ

金剛

一ト、川崎三元 四散する、勝負に 勝田也

お悔いせしました 左手の使者です

あ ピジネスの世界

69
手年

ベニ寧を相手して四百年、全國の連絡のために走るのを年々かず、左毛
きの施^{つあい}も風^{ふう}り玉^{たま}ぐヘレニアムを御覽^{おもてな}遠くペロ^{ペロ}にオーストリア通信^{通信}薩^{サハラ}州の工^くが即^{そく}都^と慶^{けい}します。され左キを舞^{まい}けて、お慰^{なぐさ}めの時間だ

あ、いきなり!

いきなり入会記念のホールディング（左キに握^{いざな}せる）

ノレして左キのや一派^{はい}にナリお父さんお母さんお兄さんハイ、コニニ
十八、この時呼名は生かす報^{ほう}ます。

生かす報^{ほう}す手^てコニニキハ、

駄目だ、お姉さんとお母さんとお兄さんが出ます、お姉さんけいいんだ、承

うん親^{おやぢ}いってあら何んなさい、行^ゆき日^ひございとば^とええい始^{はじ}口^くだ！

手年
病^び

美しい家は正しい基^基りからと理解して下さい

手年
手年

手年

アラ

オ一回目の誰ギは初歩的ヒイロハミヨイミシツ。堅い筋骨で、ト

ツ年

めの

ツガ

一寸黒云口

ツガ

僕はねえ！

ツガ

驚くくりまじり云へ

ツガ

西は改い五がニ

アラ

二れ二小林のあ木

ツガ

やめろ！

ツガ

止めるんが、左ギの話ば！

ツガ

あら、方反道の

ツガ

走と云うか…

ツガ

多のわしい語の放々で、僕ハ三羊座を離らせないでく川
アラ

ツガ

左ギ三馬倒した右、同處の馬の所E

ツガ

おさは

ツガ

ちキヤどても好き日本人達

四二

右年ノ

菅田 へ少年ヒ、本当か？

山 俊のタフラ・ラウシ

菅田 有前、ちオニ義らかこハミツカ！

山 ラキニ語サ 日本語に説せば余白、

菅田 えつ

山 余白

菅田 舞 年作の機ケキ前ラ

山 墓田さん、余白這いです。

菅田 ハイハイナ

菅田 エシノサブなんと並ります。

菅田 フラ 犀牛也行斧でも撫てればよろしい。山へ^生ホトキニヤハ

斧に勝てますか？

菅田 クンビニと私には分らん

山 果して、果してドウカラうかぬ菅田君。

71

菅田

えの

セキ

大連

レサレビ！

カネ

人権文化と違う精神の行ふ事は、雄々しくも、右へ右へと偏ることで
反対を裏いて來るんじやないがろうがね。増田君（始め立場を更せる）
（標を脱） あひE行

宮田

カネ

ア庄

想い出しがかい。久方銀次郎の宮田君

ア庄

（アラリヒ例） 全國の考究の敵だ

ア庄

——表の日ペン

アラ

では あの力のみは

宮田

初代 日ヤンの弟子なんだ

アラ

全國の、考究に編いたウ耳ウガを修正し、人権文化という力の基盤

ヒ参加させてきた日ペン

母大 編正このもろは皆幸福な戦士とほむ

ガ子

が、何故だ。かつては有能な右腕だる増田君。僕が旅に出て后、何故
に少年の力達の一人増田。

大達

も手取り始めんだ！

ガ子

こうして僕は今、右と左に振れまどう男の子の早熟に、成熟といふ
氣を下してしま可

大達

へ少年の左耳に飛びつく

力子

答えては下さい、増田さん！

増田

これは、僕がキスを施したから可

力子

キス？

喜田

あの子からの

女子

何處で

喜田

物語の川で

女子

内宿はア

喜田

内容はア、ヨリよう

大豆

あれ！

嘗田

誰々が可、物語の様な誰々が

女子

解いたのかい

嘗田

物語の誰は解けません。この世には解いて不可なれど誰々があらんがす。

父太

スオニクスの様は？

母大

物語は皆水に流してしまえ。

嘗田

來れであります。物語はいつか水の中を来れであります。

母大

水の中を？

嘗田

だが所故ではあの川で年数を経り、物語の五年を置ぶよラヒモニシです。

母大

至りい今みん何と為つるのかよほりむかん！

女子

詰ろんなら、一人娘を殺され成熱のドカラを霜け！

嘗田

と所ぞア

女子

ドカラ

お此二片物語の先序継因

女子

ドカラタ、且ちいつ

是非

女子 では、御覽に入らよう！

大連（刀をつきつける）

曰べ ギョウ！

女子 ヒミチ？

増田（帽子をとる）

女子 何だ、何が言いたい？

増田 ハッ、しました。

女子 二山がドラマよ

アラ（怯え） 懐ろ刀ですか？

女子 ようく御覽、この剣（刀）を！

大連（さらに振りかかる）

平野 増田さん！

増田（人） あ、ではこの剣が、レカマリルタだ、せのけあ。

女子 御明算、詰じつまると、すぐに作戦は武事を擱ら出す、切でござまい。

25

ト、新リかかる大達、
音起

卷之三

曾田さん 戦いましょう戦々せ

增用

ドラマに帰つるか、相手は剣だが

三

ああ、何というばん

卷之三

(第二) 大丈夫隔てます

百
卷

卷之九

五

ヘニに銃ヨリも強レ（ヘニ至れヌキ）

二

方
舟

（ト） しかレ当然 ベニは倒エリ病イ

卷之三

二十九 楽言の二十九

増田 みのさ
正空居

巫女はいつ

畠田 茂しかむらはさ

卷之三

意珠

意味

アラ

(笑) おましゃ。

曾田

半前、この! (駄目)

アラ

イんな場合半前えです。

(ト) 両度戦い 日ヤニ毛持一髪)

アラ

ええい、武器だ、武器が欲しい

巫女

曾田さん!

曾田

アラ、コラ、コラの口句ラビラタク、

アラ

すづい、名乗がヨノ

曾田

有難う、名乗とは口にする前がひどいと死でしまうもんなんだゆ、也

ほし

アラ

名乗が知りたい!

曾田

笑うほど、思ひきり無意味ヒ、そしたらほどの無意味ガ、武器にはる

んじ可いか

アラ

(笑) クハが名乗ですか

アラ

どう言ひへると辛い。ビヂュ、おでけひまがんぬえや。私の故郷は
結構綺麗立派なんぞ、二のまま心自然山にドラマのえじきだ。何よりも
僕は當然のお友達じういか。

でも

大丈夫、君なら出来る

(思はきり不馬味にぞう)

（ら、こいつに絶け！

(不馬味に笑い、威圧しようとする)

(剣で威す) マー！

(しかし負けない、笑う)

(気圧さへながらも威す) マー！

(自信に充ちて、不馬味に勝ち去る)

しかし(以降) いふでしゃか、こんなことして

何か

また縁でかく言ひりますよ

何つ。

亜白

内密が付いた

畠田

馬鹿な、何處のヒーローとんでもこと言うのは！

古手

敵は隊列を乱したが、どう、必然的に斬りこす也！

太田

（声を上げて斬りかかる）

アラ

ああ、こんなああらけしきはない本当の、本当の武器が欲しい！

アラ

片手、必然の刃で、當然と血飛りだ

アラ

ううう、畠田さん、あれだ

アラ

トニマード、アラスラルのトニマード

アラ

アラか、あれならこの必然に勝てる。

畠田

（少年に）おい、トニマードを出せ

少年

（止む）え、二歩ですが

古手

（見てにじろぐ）あ、あのトニマード！

太田

何なんですか。

古手

全國の右利きの敵だ

太田

三手の武器

79

古手

畠田は右利きのものと見て居たのか

アラ、ナニ、振り上げて、

少耳二ふき、向うねど?

アラ 岩井にむかひにわく

少早
飞矢

聖人 大丈夫 也

少耳 飛は（忍耐にてる振り上げる）

大
やめくれ

アラ オレたちの目をうけて一息に、振りむかせた。

成詠と人種文化に繋がる歴史をレリゲーション

田へ
さみ 振り下ろせ

へて、力の衰え、悲嘆、しきし四年を身に纏め、
年も石化自然へ

至ト同ジ何テレモノ

菅田 視線だ。複数がトシマーに、何がついでか、複数を手をだして

悪哉子は誰だ

声 ヘオコ 私は 美しいと 言ふ 才ひを

増田

あ、そのフレーズ

川崎

一派しい複線で、突然お邪魔します。

大 閃然にまきかけに冷

川崎

カタ味も尼僧は、あれの方には然の味もに違ひない。

川崎

無僧寺の私は悠然でも偶然でもあります。

川崎

では当然か

川崎

御臺下ござり私の頬丸、二山が当然でしょか、果して二の頬だ、人間と

皆 金然

川崎

どうです、これは突然です、二の頬は突然の頬なのです、だから突然

お邪魔しました、しかしあの突然は頬だけの突然に過ぎません、必ず
からからに御臺下ござるこの玉を一水晶玉を出す

突然の玉だ

81
ウラ

この水晶は必然可、今世の必然を写す水晶可、二の中七先程自然
のハニマーが考びました、此小豆圓で此ヒは然たん可、若しも私が
このマクスミルのハニマーをキに入れたらば、或口必然と偶然之兩年
に掛てろんだと、此の二つを同時に掛て私の考、片山左人は突然と呼
ふでしようか、いいえ、ソの筈はもはや当然可、世のれる左牛の偶然
を右牛の必然と充き色々せ正解、私は要點を忍ばけり当然、類を
する事と實行する事とをしよう、これ二つが占いに於る第一廢理、當て當然
其の自然の占いなんで、されハニマーを私の左キヒ、二すれば私
は当然と見た顔をしておりと申します、不可

卷之三

增田
少

卷之三

(画者としている)

二五、嘆息とすさん事ない

片手にマーチをやらん

人情、依然の趣旨、然て窓の外の日

急に馬は止まらず

く端
突然の朝には、二ラーラニとEでできなんDが（一輪身様える）
待て、突然が平昌篇を出しててもいいのか

川崎 え？

増田 何かやるだ、何かやるだ、
と書いてからやつてもういはもう突然とは叫べ

けい

川崎 しまだ！

巫女達 （増田をほめる）

増田 年輪年輪 足りない足りない、ちとほめろ

父大 ああ△

ト、久の時 男の子のハニマーが震え過

父大

何うしむ

川崎 おやま 水晶が 水晶に鱗が

少年 (複線をこ迷めせろ)

父大 父親の小船が振り下されるが

母大 口をやっているんだ

父大 複線をこ迷めせてろんだ

下 ハシマーがおやまをさす
れる音 音楽

女子 二ちゃん 右手の東国口一マは二二七三

女子 ローマなしか見ろば ギリ三三 左手でギリ三を掴め！

女子 遠べ 遠ぶんだ 右手を差べ

83

アラ

ケ年

84

アラ

つかないよお

右キと左キの区別がつかないよお
血年を返すしろ お前の久の先い物の様子を指す

太達

右キだ

矢吹

左キだ

金員

洗元 洗うんだ 洗元 洗うんだ

少年

ああ 洗濯を迫らせていろ(一年紙を出し) 始めて書いた右キの文寫は

まるで迷路の様でした。

トメの時、巫女、少年の手紙を奪て橋へ)

曰べ

巫女ノ

少年 僕の早熟を返せ、夏の川に奪てもらうんだ(追つ橋へ)

カニ 馬鹿、橋を渡したら、逆もどりだ

アラ 巫女、戻て来い。向道へ行くんだ

カニ くそ あの猫を相元、橋を渡らせるんじゃない

ト、弓矢撃て方大喜 箭竹芝撃ついに川崎

川崎 出ました、天ノ声は震、乾下爻上の水天震 天は川を渡るにようし
と告げたど、渡りはさい、橋を渡つも下ごさんす。
廿年 視つめる程にくらりと飛んで、複線もご迷う僅の旅が——
女子 ラア！

ト、照明C.O. 同時ヒ弓を射る音、一同、驚きの声、弓矢はセノンの牛
前飞空中ヒ舞止。

女 大 止を、弓矢が空中で舞止し矣。

ト、轎の上の巫女、弓矢を抱んでいふ等がス恐ト云矣哉、下台もやや明々
川崎 セノンだ、運動する物体の矛盾を競いだ、セノンの逆説だ

ト、巫女 篠の向うへ、少年違う、

少 年 篠の早熟を返せ！

増田 馬鹿ば、あの猫は、セーニはとにかく死んだら

ト、魯田、追々篠の向うへ

曰べ 魯田さん！

ト、一瞬石化する下台、セーニ、篠の上に現れ、投げキス、下台水つく
綵帳物言ひ三下ヒ降りて——暗転

音楽 商まで

——幕間へタ

幕闇——恋の趣物——

綾帳の前は行李のほか、川崎一家の卒主、力兵、息子、娘、未見が居
力兵のキには舞劍山を水晶玉、彼と水晶玉に本を読んでゐる

右房——こうして目を覚ましたお姫様は、やがて王孫様と結婚し、末永く
乗せに暮しましたとこ、目出で目出でし

督
外で生しがでたし。

娘
飞もお母様、お姫様は向うまで目を覚ましたの?

力兵
きよえていふほれいりんばこと。

娘
毎日、キスぬ。

息子
キス?

娘
王孫様のキス公、

力房
ううん、特病があつたの。

87
督
特病の

力房
梅毒症で、お姫様は四百年の眠りをかねて覚ましたましら。

娘 ロマンをやめえ！

88 女房 段て三百四百年の間、たゞ流し戸のしいゆす。

息子 おひでは

皆 おひでは？

息子 じ三山をすね、

女房 じ三山をすね、

息子 じ三山をすね、

女房 こぎだして山の王、

息子 白河舟舟で？

女房 わねしの湖に舟を出して山の

皆 おひでをはじめにし

平主 おが、お話をめざしたいのに、お話を聞いてるだけは向改めでたくはいぢう

皆 （考え込む）

娘 三才機がキスしちゃだから王、

平主 キス、キスの結が聞きたいかい？

娘 うん！

辛主　善き所内のアリニセスを書め此豆腐屋のカニならぬ、矣然百年の既
りにわざナシ

旨　へ元

辛主　才乃と百年豆腐屋の前主 所内のアリニセスを書め此豆腐屋が
通りキシモレド

城　タクミキヌレテ歌リ至難いたのぬ

辛主　ニトは結婚して多供を産めナシ

城　不詰画リヒメテモキテ

万萬　カクキサカ ろんたま

良知　乞意ア

辛主　二んば詰玉聞いテ 一件誰がタコモくばれんビテツ

思子　お母さん 不詰で 天して解らばいもんほんこすぬ

古扇　格リキせん 一見終てる様とも 物語は生して終り難い 何故かで誰

がか必ず受け能いひの方の手

(内傳す)

89 旨
豆腐　(続き豆腐行始める) 一 織舞川　夏中晚く景をじた 三葉川出発行

さいますと、お母様ハ王妃日本嫁さんもお子ヲ産ミ、森の中ノ別
荘に佇ムセオレドリ

ト
二度、綾張内閣に参て行く

セイ 父大母大恩込込んで来る。何かを遣ていな風。あきらめず退幕
綾張の下から セー(ニ至セ) 離だつ出しそテ驚。周囲を見廻して出て
く所

セイ (梅譜でしかべる)

声 (梅譜でしかべる)

セイ ハラ、もう行きたいたいだが

声 ハジメニ居ろんじぬえどすかい

セイ 云く云くしぬほんば、何ともほい

声 んじや 言葉甘えや

ト
綾張を亡ぐそ、増田

増田 本當ヒ、大丈夫ですかい

ゼノ 大丈夫、拙断はでけへんけど、あきらめたりたいや

増田 危い處乞有難うござえやしたせ、

ゼノ 全くしつこいやがゆえ

増田 本当にいつも何時も、曲り角という曲り角で待ち伏せてやんのアーフラ

ゼノ あんたもう一寸身軽に舞臺へんの?

増田 やはり素質ぬ元んですがゆえ

ゼノ 何の?

増田 插の

ゼノ 手あ、この際、深く人間として生き抜け

増田 先生 やはりえですせ

ゼノ 入門して一年も経つの七星一つ登山人のじゆえ

増田 言語だけで、革しているのヒ、ハセギ! (左手を押える)

ゼノ 嘴まかせんか?

91 増田 向日葵の垣根を越す時ヒー!

ゼノ 血がててる、舐め上げよー、舐める

増田 もほ、暮貨ぬえですかぬえ

セノ これは當分、鉛筆握りへんぬえ

増田 左半生生活者の危険ですせ、先生は何ちですか

セノ 何が

増田 利き腕 もほ左でね

セノ めては、真中利きや

増田 真中?

セノ 軸に利き腕はないさかいぬ

増田 成程

セノ 時に、右前手を憶えてるやい

増田 何をですや?

セノ 納東ニ

増田 納東?

セノ ほら、川端の夕顔を見て二ト三ト指を絶手せなやほいの

増田 あああれ、走れるもんか走れ!

セノ 絶対に、おの時もあんじどうましたぬえ、あの夕顔に驚て走れ!

小学

セノ 枝を卒業したら、僕は先生と結婚するんや、
増田 へえ、どの為にこうやって毎日修業してますせ 結婚してギリニアに行く

んですせ

セノ でも、段々体が大きくなつてく

増田 先生！

セノ うれしくて、あんたより年上や

増田 年上つ

セノ うん、ええか、聞いて驚きなけしは

増田 ええ！

セノ なんや

増田 恵志が弱いんと聞く前に驚

セノ (あきれて絶句、老しくは溜息)

増田 やだな先生、素直氣ですせ

セノ ぬてぬ、猫の歳で四百歳やめん

93 増田 四百歳 猫がぬんば年の差行んつ

セノ 片山だけやない、猫の辞書ヒ登といつ字付ねいんや

増田 年の差があるのは重なって

セー もれに最近、お前石牛で釣り竿つ櫛當してろんだってぬ。

増田 元、なんぞよしを

セー 勉強部屋の文鳥が見たてよ。

増田 あのが喋りめ。

セー いいか、右半はんかに目寄たら、もうお前と私の小指で結手ぬはいん
だからば、忘れる仔よ

増田 先生

ト、セー二、一度退場 音楽

増田

(ホントから紙切れを出す) 始めて書いた右半の文字は、まるで迷路
の様子で、旋回する程にくらりと摆して、僕の視線もさ迷い出しやレ

ト、セー二、

ト、増田、セー二を追う。ほぼ同時に、セー二、走り込んで来る。追つ

少年 一トヒー西 レキシヨウカルコ

少年

一くそ、追いつけばい（張ばせや）

セノ

（かわしき）無理や

少年

何故だろ？（騒びやがる）

セノ

（かわしき）無駄やて言うどんのや

少年

何故なんだ

セノ

並説に追いつけるもんない

少年

並説。

セノ

セーニヤ、セーニほんの並説だ

少年

片手、知りまへし

セノ

つまり、私たはアキレスと運や、アキレスは速して毫毛を追い抜けしキハ

少年

ほなアホだ

セノ

じめ追いつけてけい

95少年

カニラ（騒びやがる）

セノ

するり、ほれけた二とか、二ぬが形而上學や。

ウ年 哲學の尻尾が挽めたい！

96 セノ アキレスが、二に、毫が、二ににおまへ。アキレスが、二に、キテ平成時
毫は、西ニに行ひます。

ウ年 アキレスが、西ニまで来れば？

セノ 亀は、さのに、あのまだあ二年で、二ラレコ一日自里を行く。駄天アキレス
スは金輪際ビニ亀を抜けまへん。

ウ年 オンナ哲學は嘘だ

セノ まだモソアキレス！

ウ年 僕はアキレスじない

セノ 御覽桜空を、天が高いやう、高いゆうても道場やがまへんが、あ、馬
が並立ちしてゐる。うめあ門てんばあ

ウ年 何を言ひたいん？何を

セノ つまり

ウ年 つまり

セノ 天が高く馬も肥えとる

ウ年 だから！

セノ 今はセララ女めす

少年 五ん?

セノ 一アキレス

少年 今日は夏だよ。

セノ フラアキレスは夏の子です。語尾のレスとは何々かはいや叔とい
う名詞にレスをつけセアキレスには、ビザン絶対に叔が来てへん
少年 でも、アキレスがニラんばに、にじり寄だらフ。(ヒジリ寄る)

セノ クレでもほ、二の十五セニキの隔ソロ無限の隔リほしや。

少年 烏央が止たのもセニの逆説?

セノ ニラ、さ、ついて来はけ山、弓矢が静止してろ間に

少年 ヒコまで行くんだ

セノ 一年鉛をかかして、二の駆馳の跡をたどり、迷路べズルの碟は文字を

少年 二の迷路の到達点は?

セノ ナールには、私といラ一瞬の書物!

ト、音楽（イニトロタクミニ

少年 僕が、君といつ書物を読むの？

セノ うん、その為にす。

少年 為に

セノ 五七しきは

少年 横うは

セノ この迷路を解くんや！

ト、綏懐 ライト・オーフニアで遊び

——ニ幕へ!!

二幕——恋の接吻——

上 細帳の飛んだ下台は、洗い物はためき糸ボニの様なる川辺の洗濯屋
先程の一家が、いとむ原始的川辺中、鹽が舞い、嘔も流れる。

母“皮膚ヒ呼吸”ハ

三ツア ミツア ミツア ミツア

ああ樂しいな 在のお洗濯

盐と洗濯玉天地に叫んで

三ツア ミツア ミツア ミツア 四重唱

歴史ヒ酵素を突進ト語リ

三ツア ミツア ミツア ミツア 四重唱

娘 あ、お見さま、セーニュ。

息子 エーニウ

娘 隣の畠田さん家の飼い猫ア。

娘

息子 長靴をはいた猫かい

娘

長靴ははいてないわ

娘

娘 憶えてないなあ。

娘

母 ほら、四年前に死んだじゆけり。

娘

100 息子
娘 リヒはまつ
らに射られて

亭主 まこと御一党さん！

古事記 おなじの妻アモマセんつ

日年
號

幸主 五元、ここはクリーニング商会です

立場ほどのまことといひいふです

セイ 先き急ぐひや

亭主 クラ高めほいで旅の方

女房 お願い現てくだされせ

一曰
裴文

ササ
アアア、
ははは、
ウマテ

一
同

セウ
笑ひました。

（妙子）君は、君は今でいいのかもしない。しかし、しかしとも

章主 一息手を用ひしゝしかし、旅の方をしてもう止めしめたものは何日も立
せノ あの美しい物が云ふと夜風を受けて虚端、愛想をみりましい様な氣がし
せんや

章主

つまり、つまり君はあの美しい物を美しい物にしたんだは、
山年 すい手せ元ん

一圓
山年
ん？

章主 美いが、采るさへろしか能がはい荒宿物風情に泡沫のユーモアを看

てやれる君の目下、太陽と何う算さんぞう。

山年 太陽か、虚無的か奴也や。

山年 壮烈也、何でドライクリー ニニクは響きほの！

セノ ビライがぬきなんや收

章主 聰業の梁けさ カくはるうえは

セノ うえほ？

章主 是非とも先づ行つとくれ

10/ 女房
先づやさい。

セノ
102.
亭主

だつて居らへませんもの。

何が？

山の服が

息子
セノ
二いつ、服があひてぬえのを自慢してやがんの

山年
落てくれと言だだろ。

亭主 寄画をすんは寄画を、誰がんはものを売うと書いた。

山年 花屋じぬえのかここは

亭主 めえのがここはつ。

山年 ラニドリーダララニドリーダ
亭主 ドララニドリーダ用か

山年 指男！

ママ！（山年ヒ組カフク）

（投下）向ゼ二いつは
(毎び組カフイコ)ママ

（投下）二いつ、向エスヤニリヤ

立鳥
毛取りしてんのよ。

先生 一オ寺門にしき黒帝の鳴羽を極みとせずをあこえしむ與郎だ

ト、一同ハラーンてえしむ與郎だレと思ひ。

セノ ゲモウテシムヘンメ、行キマム。

セノ 待コヨ、待コ待コ待コ

辛主 管ツヨル、飛ツ歌レいの日寛は奴々なんビ
セノ 向云君が飛羅屋を飛ねはあきまへんのや
セノ いいのよ細かい事は、

セノ でも

辛主 頼む、奴々を飛ツて飛ねはいだろアハ

一同 お願ひ、飛コ

セノ リレ、若しかして還次を鳴て名んセキ、ヤウ、
セノ マルバツキをぬ。

103 セノ デルバリ式の

セノ 人曰誰をも飛羅屋の前を通り過を万時、マルカバツカヒ人生航路を問ひ

れ方の

104 辛主

田名者を出でるマルヒカエで二のバツの忍た。老女ト生のマルバツを
生きているこの姿を御観。

ウ年

成程、エロ儀は、三角と答えておつ

一同

三角の。

ウ年

うん、あの夏の大三角の儀に

ト、幾種類、書始めた馬を放つ。セーンは、いいが二ん番ほど、ウ年を奪あら

辛主 開いたがアミラー、二者取一を三角形にしちまひやがて、二いつは先
縁屋の敵だ！

一同

(殺氣立つ)

セー

三角形の相處が不可させんのや

ウ房

やめて、三角形の話をすのば、

思ふ

くわ、あいつのトニマーを見た時から厭な予感がしてエレベ

娘

お元様、何うしつ

息子 二の前段屋の詫事をしてジーストエフスキーを既んだ方

娘 元々

ジーストエフスキー 罪と罰かう

娘 罪とマル

セツ 罪とマル！

息子 今世の之間はハツだけを酒もせても、次段屋の丈草さはマルバツの西

天秤が要るんじ

夫婦 何でもジスをなしが

セツ デスをなし！

夫婦 元々、ジスをなんば、帝政ロシアの建築屋の為密せに書きおろしてての
息子 ラスコリニコフは斧で金貨しの頭を碎いたば、罪とマルでは、惡徳兎

羅屋の頭正人ニマーで研くじじ

主 おまけに三角形せんべを琢り出し石とあわせ紙に建築屋の天敵だ！

一同 へお風立つ

125 セツ 三角形かで女郎打選抜やが！

主 我々はもういう形を眺めねばいし！ おれ、ラニドリーの心意氣を見せ

てやれ！

(さらにお島立つ)

一同

赤兎
等立つ

一同

えつ

赤兎

待て下さい僕の振り筆立つ

白猿

(唚然と) 指男立つ……！

赤兎

この問題に関して、僕は二三口詰を聞いたことがあります

猿

聞かせて惜男立つ。

赤兎

二の間、縁側で僕が苦笑していました。猿根越レヒヤラトニが詰レ

カ丁立つ来ました。

一同

アラトニ

隣町に住むシイさん猫です。彼曰きいました。この世にはマルとバツ
ア割りキルはないものがある。それは何ですかと僕が問いますと、三角
形の三脚形のじや 還びオヘスに繋う三角形ニガ宇宙の究極的
要素はのじや どう言い残すとアラトニは走つ行きました。次の日以来
僕はこの問題互罪くメモティしてきました。

107
一回 ふうんへえ

赤兎 さすから父上、二山からの洗濯屋はどの回答補助、マルバツの他三角
も付けねえるべきではありますまいか。

女娘 指男ちゃん、お利口さん！

平三 だが、太陽がこの地球だとこれくじでるが

息子 指男、洗濯屋が向う見て三角を生むると言うんだ。

赤兎 元々、あの満月の様に

娘 指男ちゃん、五月様様と真んねよ！

赤兎 さすから、洗濯屋は許人になります。

一回 許人に？

娘 あ、おやへ丁度合ひ

一回 えの

娘 カつて許人は魚たぬ。

マツミ、伺てぞいの。

息子 あの草豆にねれ目だて、草は三日形ほの、火小がおまことに早く回転レ
ついるから草んばにまあるく見えろんとす。だから、地球にて太陽、だ

2 めきだせのあづる駄前の女が、二の世のれいせのは全て三角
形が遅く回てるヒロキ自らのヤもレムせん。
赤兎 さすからお父さん、馬も三脚を足跡にしてけりません。

セノ ええや、猪男！
白鳥 猪男様！

赤兎 ババババ（斜止ろ）

一回 猪男！

少年 麻姑赤ん坊に戻たる

セノ あら、二の隙にわいとましよ

ト、セノニ 少年を連れて去る。

赤兎 ハハが前の三角形を残つてやるが！

猿 お父さん、猪男にはてぬ。

赤兎 姉さん、二の世の梁力を残す花巻屋ザイニクの筋けに想いを託しても
いいのかな。

亭主 人は求めて華ちないイニツの梁木を二の体に持つてゐるんだ。だが、多
世の何處かにはどんな花屋屋でも葱い葱可ニヒが出来ばい梁木を持た
事が居ると言う。ああ、いつやうんは梁木を葱てけむ！

ト、青翠ノ、青蘿と呼ぶ、ア

三ツア、三ツア、三ツア、三ツア

あ葱葉しいは、梅のが葱屋

喰つてい方歟、父大と母大 鮭節の粉を振り撒キながら、ト場
粉にむせ方一家

犬達 鄙色下さい

亭主 一むせて、何だ何だ、何をしていろ

父大 見て、少かり手せんか（鮭節をすく）

109.急弓 ペッペッ、ニリ鮭節だ

一同 鮭節！

110. 亭主 空連口 猫籠屋に鰯節を撒いて、何が得をする? 連なのかへ物論激怒
していりる

母大 二二の一幕に撒いてん。

保健所の人?

父大 まあ 似た様なもんです。

母大 だが、二んなもんで撒せるだろ? や
父大 告じるんだ 鰯節の力を告じるんだ

娘 あの

父大 ん?

娘 家に關係なければ引きとりを

父大 二二 川崎さんち?

娘 うう下すけど、

母大 川崎釘男さんて居るか?

娘 あら お兄てまく何か

父大 ええ らしいと

娘 おじさん達は?

娘 おじさん達何?

大達
四年です

娘 鈴原さん爲だのかあ

母入 ええ 川崎さんヒキ紙状願ひてます

七 美弓、上鳥

美弓 毎といつ考証を聞封すると 一枚の白紙が入てろんに

娘 お見こす。お手紙子。

娘 錆てあつ

美弓 川崎鶴風さん?

娘 おうだけど

美弓 ハタヨリも匂ぬ。絶句

父入 ほい

美弓 人の人を笑ひでらん

父入 へどおに。眞尋行つ

112. 息子

色板仕事喰

女大

舞手子?

息子

喜翁リ

女大

嫁妹

息子

水手多

女大

御き何處バ阿
恵君の續り物

女大

スルツツ

息子

達在ト

女大

限百時也?

息子

未立の事打立教之て名

女大

既至百十不

息子

アリハシテ一レテラズモフ

女大

セクナリトモ

息子

用意定正海鷗云所

母大

ゆカリテ事並義事と

一同 血統書つ

父太 フロア・ルビヨ、あんに送たう。
息子 横が?

母 大 紹じ込の筆書きに書いてござ

娘 一件誰なの?

美子 申し渡いました。こういう者です(名刺を出す)

娘 一読む、ペニ字を指導して五十年、株式会社・表日本ペニ字習字つ
美子 あ 間違えました。裏を読んで下さい。

娘 足の裏を

美子 名刺の裏を

娘 "墨縁色の書きをもに、コニターターナリサー千枚の会つ

美子 ええ

母 大 株式会社永遠の恋人ふす

娘 よく週刊誌の裏紙縁にあらぬね。

113
母 大 新聞ヒド出します。ほら(新聞紙を渡す)

母 大 コニヒトターナ照合しE結果、川崎さんの理想の恋トを割りだしたんだ

娘 片山が二の人物

114 美子 左様、さあ私という自然ヒビんと書き込んでおくれ

娘 向きの

美子 志人と言つ証します。

息子 イニクの紹介公つ。

美子 片山が私の血統書となろんだ
息子 僕は申し込んだ記憶はないが

美子 論かへことはいいんだ

息子 怒鳴。二二は慈雲屋をや

美子 片の下つぬ。

息子 白いモノに染め立つける場所じゆえ。血統だろうが係累だろうが、染

サと言うだけは真白く漂白して干す

美子 (フラリとして) 聞いたけ友の会

大達 (ええ) 先生!

美子 世の中には、こういう人達も居るんだ。我々の様に成り振り植ぬす血

統をせがみ王めの者も居れば、二の人の様に血統を洗い替して良しと
する人も居る。これは

ト、一日 盤をひきかへ、赤でゆく。音楽——懐しい時代劇の様に——
すると、合羽からきて三度笠の男が、長脇差しを振りまわして飛び
こんでくる。続いて深緋笠の男、ト馬、二人の男、しほし殺陣せきじん
深緋笠 三度笠と負けたら、危機一發！

深緋笠 (あけやという處) ——待て！

三度笠 命乞いながら聞く耳はぬえ（刀を振りかぶる）

深緋笠 あう。

三度笠 何う？ 何がちう？

深緋笠 金剛利き自慢え

三度笠 (刃毛りを見回し) 成程 重ねて重ね——とんと尋ねへさせんせ

ト、三度笠の男曰、アラトニ銀座、深緋笠は畠田である——矢吹は小
判を手に一柄はいいが、猫口向處だともう出でない

117 二人

(顔を見合せ) おかしいなあ
曾田 夷次君 素の通りと違うんじやないか

夷次 一何が

曾田 向がて「猫に小判」で言うのは「猫は小判が好きだ」とんじやなくて
さ、「馬の目と毛並み」の近く「気がすんじけど

矢吹 気のせり 気のせり

曾田 うそつ。一やは違うよお

曾田さん

しん

飯塚 這うと言えば この「猫に服装」のもの何が違うやせいか
曾田 馬鹿ぢやね、猫にマタタジって、猫はマタタジ好きだろー正しいし、
飯塚 そりゃ書いつき正しいですわね、猫のネの字三つ連ねて書ないで下さい！
(曾田にかわづく)

曾田 真剣にやんねえかのじやねえか、氣食入ってやればと、畜生くらす

飯塚 あー、ソラウラニと言えるんですけど 曾田さん

曾田 向だよ

飯塚 お腹張やなとこもんとお腹まで膨えましにさばね、あしたの方は何
うほんですか！

ト、見ひよ 薩田の股間に足袋が目立つてゐる

薗田 たゞ 股足袋ともあん

飯塚 あつね もしも私が猫で マタタジが母子だとしますよ やんでも
股に足袋つけてるやんとを見て “あ、マタタジが 食べすほんご寄る
でしきかね！”

寄りねえだな

寄りませんよ！

ううか おがしいな

一ノ木にしつも

猫は何處に行んだろう

これま はくじらめ寝しに寝起問てもした方がいんじゆえますかい？

飯塚

三人

薗田

飯塚

薗田

長安

太遠

二小は?

美子

もう

父大

先生、牛にならないでやさい

美子

後辺君 もうと言ひかうとして牛ではないんじ

父大

おは もうの

美子

もう 如何ともし難い

母大

おは ここはあきらめて次へ

美子

うん(行きかけ)あ 時に

娘

ほい。

美子

見なねたがね?

娘

見なねた金?

美子

ここ五、猫しがキガ通り過ぎなねたどうか
(考え) うんとね……

娘

うんと通るばくてもいいんだ、一組で

115 美子 娘

美子

成程——美しい答えだ

ト、差手遠、あて行く

116
主
女房
(頭をか、やえーああ！)

何うしたの又てん。

主
女房
行かない。あめいう人達のことば分らぬい
急手
云はね々も行かないうちヒテテ

娘
お母なし。お詫の絶を読んが

女房
(読む) 腹へ光るコイニロ、カーをお母さんへ聞けると、中ヒロ美しい
女のかわすありました。お弟さんはどの子をかじや姫と名付けました――

ト、一同盥立云ふ事でやく、彦娘はもう入てる。猫は何处だ、猫はいは
リかと、ト判の床をあわすう言ひせて寝日ベニの簞田 飯塚アラトヲ
正次が年り込んで平山寺、最初に口をきくのはん、飯塚にしてやうづ。

ト判を三ツまう鳥のしてたせーおまソ、判を自ら叫んでアゼ

二ト
ん。

飯塚
二のト判。

田次

格言を信じなけり

飯家

へえ（一）（二）（三）

曾田

ぬゑはむる

年次

へえ

曾田

二の格言も向ひ違う氣げすんだけどぬ

年次

氣のせり氣のせり

曾田

でも捕に小判では、猫は小判がめを思へんとなく

に通い氣がすんだけれど

年次

りんすす下ニハセ

飯家

アシ 猫は当然鳥リヲキヤせんせ

年次

氣のせり氣のせり

曾田

おお、お伊達うんじはないやつ、猫に小判云々ほ違う玉が

飯家

ねずしきれ渡しに家庭萬問でもしあらがいん始めえますかい？

年次

日ペシガツ

曾田

ミラミの須し屋はんて句アドレ

曾田

おきじばはりは

姫路
しゃし

118 正吹 駄目よ。畠田へしヒ家庭訪問は

姫路 何の悪い想い出でもありやすがい。

正吹 黄、鮮創意を顔に顔ア虚装してぬ。家庭訪問ねてモニとがガるの

姫路 あ、片岡が原田ア芸能界を連れてハセヒトいう。

正吹 慢元である?

姫路 飯塚 ゼニハ事件さやし在也。

正吹 ミレ、駄目よ脛ち込むが

姫路 あ。

正吹 ほめに

姫路 新聞せ集ひてセ

正吹 畠田 喜て金川ん詰め元が

正吹 大体何でがんばぬヒ日ヤニの仕事ヒセビのエ

畠田 おじ松だんだ

正吹 忙しやだつ。

畠田 極の牛も食りたねどんじ もれでふと思方とおの物がぬすいでたしど

正吹 まぬいてたんじす。

畠田 いや、實闇君を見て左キを出してた。

坂吹 ぬまき猫奴。

畠田

うん、まねき猫は右キカラ、ぬまき猫は左キで呼肉のか、二本緋起が

いいと思ひてさ。

坂吹

何ラしてお敵を算せんとしゆえ

畠田

おれはやはり

坂吹

やほりの!

畠田

箱ババだろ、

飯塚

(新聞に目を通していたが突然)——おおう!

坂吹

なあに?

飯塚

これ、畠田さん 二山見てモテハ!

畠田

天皇陛下が諂ひめでもしたか?

坂吹

(見えてる) 畠田さんこれ、

畠田

(見えてる)

二人

違う違う 沢山ねえ

畠田

皇室陛下がお嬢金剛 手賀の父親は西武の田淵?

三人 どこでもない、どこでもない

120. 鶴田 何処だ 何処だ

三人 ここだ ここだ

雪因 ええ、一時はソノヘ多カ新聞も暮す フラリと数歩、時計を見て
から東郷と並んで左側に立つ

三人 (悲鳴) 一人の

鶴田 ん?

三人 (囁き) 飼うし三ん金か?

鶴田 いや 天気子紙半もアすぐ雨だ

鶴田 読むぞおは読みなセー

灰吹 (読む) 羞恥色の音を悉く コニギーテーセトリサー牛 永遠の恋ト

鶴田 主體が哀の日ベニテイセ

鶴田 わヒ

志人屋の外食経営で右の日ベニセ布教してるんだ

長次 負けられたいめよ、早く鶴を櫻さなきや

鶴田 鶴君、こういう格言どなくていいキを教えなさい

鶴田 じ、お詫でもしますが

兵吹

お詫び

飯塚

五キの方詫をしていはずもおびき出でらんぬゆえですか

増田

何の詫をしようか

飯塚

野口に行さやレヨウ

増田

野口か一あいは確ひ。明治十五年夏、奥は会津の靈巖山

飯塚

トラトラ

増田

既に篠山の天狗岩は夕陽に霞金をうけていた

兵吹

ヘニバン

飯塚

生まぬがせらにこんぼうと呼ばれを野口。当時六才の野口英世が一人

靈巖山に遊んだ時 天狗岩では 井神真楊流柔術の名人木曾良老師に
角中の、吉三四郎が 精伝山嵐をマスクイベく荒行に励んでいた
——これは 命的に歩矣だ。

兵吹

野口英世と吉三四郎が！

12
増田

シトは 果し合ひをレモ

兵吹

美術と医術が

122.
年次
飯塚

タニケンノ。

天相山を覗け鳥たま散刻 鳴はすてに暮れ月明リビナガ燈々 しか
レ互いに相手の出すキガ詠めない 霧を流れる細牙 クの時！

二人

クの時、

谷の目には野口の左芽が勝た メラビニ板はてんぼうだ クーレ、ガ出
せばいてんぼうだ この勝負もひどせ、島名もろとも谷の左キガペー
キ締り出ス一が、シカレ！

兵坂

シカレ！

飯塚

野口の握らいた左芽かのロ 三キ二筆ヒニキの指が、のびて
ええ、クレゼ！

兵坂

とまハ野口は人世最初の勝負に勝ル、

喜田

野口左世のこんぼうは、彼の意志を握らせていいだのは
うん、で、生まぬながのヒト何を構てたんじと思うの、

兵坂

さあ

飯塚

ハニマーダよ、銀色のヘンマー
あんすきわいものガ！

兵坂

飯坂

曾田

矢吹

片の馬口玉をなんとかこなほヒトエがねだんだけど、すくすくと成長したの
戦いに破れた三四郎の方は、やがて本郷の講堂館に伝ととて言ひれる
が、片山は確々、全国どこかへ復讐の爲めに左利き矯正運動を始めた
りの家火を組むのが表の日ベニね。

曾田

うん、片や我々は駒口の仲よしだ二本の刀を研究し、更に一本加えて
左半の法则を完成させたじ

飯坂

矢吹

だが、かずつは私達にも首肯がほい
何がの

飯坂

曾田さん

矢吹

曾田

何うせんだろぬしがいひし、箱を渡し出す出を考えはキヤ
禮し出す年数、片山は矢張りをキビ

飯坂

曾田

どうか、物語を継ぐ方に物語をもつすればよいんだ！
と言うとの

123
飯坂

こんな話への様子不思の中に繋がれていいので、ちが筋書きをつくり

まうひひすや。

矢吹

筋書きの

124
曾田

干柿の友達よ

矢吹

成程

飯碗

ストーリーのこと

矢吹

ストーリーの

曾田

素通りしてゐるの

矢吹

おや

飯碗

物語りだよ

矢吹

物語り?

曾田

物が足りてろ状態

矢吹

あ、おや、おう言へくん日本が

飯碗

何う言えばいいでしょ、

曾田

飯碗くん、これは例えば、こう書うことにしよう、ある中学生の女のが

遊びした

三人

うんうん

畠田

圓卓でセーラー服三着で床を飛び出る。勿論ロヒはトースト一枚、急いで走りて曲り角を曲るとレスンヒルヒルに立つける。相手は向となくハニサムは男の子ささでも急いでるから、何干危いわぬとか言つて怒る。

でもて毎夜に着くと遅刻で、風呂部の先生が叱叱られ、今日はついでほいめ、これも吉野男に向つたが、だら子、ほんりとボヤいて教室へ着けば、何やらクラス中が騒がしい、財元は元氣レミの？ 今日ね、新しい転校生が来るんで見て、あらまあ古い転校生でいいね、キソキソするところを教室のじアガタラソと聞き、省吾静けい、昨日からこのクラスに入ろ仲間を紹介する。かくて、転校生が教室のじアヒヒ足をかけた處で必ず次の言葉んだ、ペラ、現めれたのは、ほ、ほんと先刻ばつた老男の子ではありませんか、でなでさ、その男の子はすぐにクラスのペーロービ店でこ、おの子はもういい、もういい！

万りんにいいか、で女の子はと言

もう止めてくれ

三人

畠田

125 銀城

馬鹿だよ、これから面白くはんだが

126.

飯塚

あたしが見て、この民の間でターンの 五つや六つ見てますよ
十年前は八割も二小鳥だからね。

飯塚

二小鳥スチーリーで十分 元 想像力ありますか！

増田

はに

飯塚

貧しい、理屈が通じてます。二小鳥のはスチーリーじゃない

増田

黙れ 三頭身！

L. ライフを送る飯塚の間

矢吹 云 非道いぬ！（歎きを含む）

増田 矢吹君 違うんだ もののこと通ないんだ、何ここに言ふすんだこの馬鹿！（へ飯塚を睨む）

飯塚 何だ 何だんだ 何で僕が役立つんだ

増田

黙れ

飯塚

黙りなさい！

増田

しゃへるは

飯盛

しゃべりたい！

曾田

——うか、喋りてえや んば喫てれろ。

飯盛

(突然笑ひほんほん自行ヒ氣付く)

曾田

じうじ 僕が次の料自どきうまみ喫いねえだろ

飯盛

(あせと顎を弄る)

曾田

年前の場はんが誰が贏うか、しほのくらうやうろ。

曾田

(曾田に殴つかれる)

飯盛

歎 自体の飯盛だ

飯盛

(雨が殴りかけれる)

曾田

三才、不具者の肉体は何故か闇の光ヒ弱い(飯盛を殴すと云ふ)

曾田

曾田さし 強い

曾田

矢吹 飯盛もいい気味だ

曾田

(矢吹)

127
矢吹

本当に矢に衝て言うつむぢだの？

曾田

あのね 僕を負めるんに弱い。裏の方ならアス。あと 痛めかれるヒコ

~~アハハ山元 危山元山元~~

矢吹
(笑て顔紅化す)

128
畠田 あははは 矢吹君 おひる 郡下の風上にもおけ百じぬ

矢吹 (ニロに笑て顔紅化す)

畠田 あはは 畠下に行か

ト、畠田 矢吹を連れて畠下へ

矢吹 でも畠田さん、このまま帰郷され可並々誰のままだれ。

畠田 二の誰々は詰せなくてもいいの

矢吹 手がれるから誰々でしまうが

畠田 私の場所、片付け一人の男の手だよ。

矢吹 何のことを。

畠田 黒の子はいつだろ? これが自体解かれることも抱んでる黒々の、黒の子

の午板を聞たまし。

矢吹 へえ でも説めやしちゃだめ。

畠田 ヒシコがぬ、詠んだの瓦にしきの字を

兵吹

解説してなんですか！

畠田

午後はアーストロ左ドンガだ

兵吹

アスザレコでヘビツ

畠田

いや、一回アスザレコ食べて反吐すればいいだけのよ。

兵吹

(畠田を割して) 当時、我々の故郷ギリギリの世人達は左牛を二三日く

變していました。文章すらも「左ニキア・アルスビトモ」と逆に右
から左へと書いていた程。片側がもともとあた書体と名体していつ
しかギリギラ語は右から左へと書いた。改行して、今度は左から右へと
書かれた様になりました。かまうに右から左、左から右へと機山ほど
の書体をアーストロ左ドンガと申します

畠田

(笑) 無理しまし。

兵吹

(笑) 無理しまし。

畠田

確かにあ兵吹君、牛々隔にオナホいぬ——真中にケニラカ(真中)
ナミズ

生きても始めで右牛で書いた日してまで書こせのにぬ。

畠田

勿勿、本意が足りば松毛しがう

兵吹

右牛を捨てる本意やア

畠田

うん おれもこなに迷ひまどつ葉の年数が報らせたし

矢吹

で 食はるんですけど 私たちの居るこの迷路にスルは

130 畠田

そんにこだあ 行ひぬえ

矢吹

おひじ跡目ひんすすキ、

畠田

金てば瓦の寝間着始末第七二、

矢吹

端は 端は 一條何處にいるのよ！

畠田

端は 端は 多分

矢吹

多分？

畠田

この魚に

矢吹

して片の根柢は

畠田

山勘だ

矢吹

試験でヤマけでるんばぬえです

畠田

五と、私は二つでもぬ、御幼少の喰山勘の畠田、畠田の山勘と尊敬玄

矢吹

愛ウカラヌる口と刀がらへせんが

矢吹

包力？ 重宝ざのいを云ふ

畠田

いや、試験の山をかけ方時、僕は包力を持つていた

矢吹

包力でヤマけずだつ、

増田

うん、黙睡の朝日ヒ日向、包刃キヒ一晩中主校の喜山を駆け外ぐる

木次
木次

へえ、ハハでほく当たれぬ

喜山

幸いにして、95%以上

木次

的中率100%

喜山

ほお、E率が

木次

クレジット意味ないひょくが！

喜山

馬鹿者、考えてもれろ、ハハでも5%は当たるんだが、え、言こわう

言こわう、何処の世界に、包刃持て山を駆けずるゼナで5%も当てら
れる人間かいあるんだ

木次

（三ツツを置ケ）何処の世界に、ニラいうオ爺を銃いなつす人、がいる

喜山

ハカラカ

喜山

猫のないしむよ木次君、迷惑せずに私を呼ぶ筈え、さあ

喜山

（やとの思ひ）走れ！

131
喜山

何、天すの、

132 曹田 ほう 博人？

矢吹 黒倒していふのは 知恵足らず！

曹田 有難う。い手にかつて卓の大蛇が理解されることはあるぞうやうり
小を知るには、君の雄叫びすら天オへの譲譲以外には聞えない。

矢吹 (ありとあらゆる黒雲推進を敗ひせる)

曹田 气色三えはあーしかし 僕の中にもまだ風俗の血が残してゐる
けたゞ やのんが馬鹿者！

矢吹 ああ ヤマガ 物語のヤマガ見えない 曹田さん！

曹田 矢吹君

矢吹 若しがして あんたつがとやらなくしてろんじせいの？

曹田 馬鹿 僕を賣のろんじせい 賣めるんならストーリーにしろーほ
飯塚 ストーリーに罪はない(地鳴りの如くに来て再生) 速に言ひました收
めの料目

矢吹 しません。

長松山 差に裏ハ冬眠だに しけレ 二ラして私は だ

飯塚 (周章)ストーリーなんてシノハモンド、シノハ物語りか 物語りで
ハニラ言うもんねえだろ、ストーリーのほり物語だてあるんだ、駄

曹田

飯塚

曹田

目ゼロが止らはり！

飯塚

試練を乗り越えた者が如何に強いか、身をもて體験してみることのない方松田に（尊しく不気味に笑う）

増田

（苦しそうにもがく）早く、早く次の斜面を裏へ
くさいえ店公助を入れて力動じない私だぞ、さあ じくり私の下詫
を聞いてもらおうか増田君（増田の頭を驚かせ）ん 何だ？

増田

（三毛矢張）

飯塚

（解説して）いつ、やめてくよ。モーモークルが居る？（手を見） フケ
じよっけ！ 老トニクルとフケの息吹けも出来んのか君は！

増田

（三毛矢張）

飯塚

（三毛矢張） いきまでは老トニクルだと思ってた？

飯塚

ほう母白が微しいハ 下不し 頭撫め増田！

増田

（へ媽ひで母も） あなたが誰かねる本心を詮説せねばならぬ様子

増田

足を舐める増田、行一方一可憐いやあ 試めする舐めよう、二七も行
櫻田、行つ何を向む 結構上手じけりか 何奴か云やつたのがつづく

レ畠田 お茶ぢ お茶入少て来り 热いのはためだ
ト、畠田 下茶を拂けしに 退場

(一瞬空白狀態)

ビラレタのマニエリズム

卷之二

——今　畠田ヒ命を下した瞬間　俺の体の中に　元も言ひぬほどの
力の電流が流れだ　これが死にの

卷之二

卷之三

思ふに、この主人は權力の者ひとり呼ぶんじゆがろうや
飯塚君！

卷之三

卷之二

卷之三

元?

片の名前で私を呼ぶね。今日からの私の名前は「權力者だ！」

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之二

飯
齋

ト、萬葉の權力者(權いにせんじやく)が其の身(身ひき)を出でるところ

數度むた便と蹴殺して

心を惡意に走り渡すのだ

一タケの薙まで大姫耳(おほひみみ)

お茶くせ 扇もけ 便所(べんじょ)うじ

墜ちるトコキ(トコキ) Rolling Down

etc. I Shoot the Star

一つか必ず オソアガガのだ

一へか必ず エラクなるのだ

タタヨソ五(ご)二の俺(わらわ)

奪れるものは權力者 落せるもの曰權力者

詞。ラバホ

ト、萬葉の鳥を走らして 落ち度 慢雲とともに飛び込んでくる

二四 は はい。一瞬目を擡てえ。

美子 金語だが 恐れトドも越す口よ！

136.

ト 猫の鳴き声 送りぐる

美子 ようしー 誰三ヶ月も出しへば

父太 いい作戦だとのにはあ

田大 テイテイ良くだ。 村中の猫集め仕様がねえだろ。 え 見ろ 改良
モ鳴らさへだ!

美子 飼割いも時として美しい域 変にしまえ。 こいつは藏棒にしとむ
母太 会長 フジアヤシアゲあります

美子 自信持て美しいと言えるわ?

田大 ええ

美子 は 今ハ行ニラ。

ト 美子遠去る 父太 恐れトドも越す口よ！
連 勝利に見せてリモガ

失敗

トモヨ子年大して?

飯塚 退がラ 加農を出でけマラ

ト、二人 退場 入れ代で ゼノン登場 菓ちて いる舞節を與り食てい
る處へ 薩田 お茶を冷ましたがら 登場

ヒノ (薩田に手付く) あ!

(ゼノンに飛びつく)

ヒノ (かれして) お前

サト (も一度飛ぶつニラヒする)

ゼノ 相変らず無器用はやあな

サト (飛びつく)

ゼノ (かれして) ヒノの忠誠でせ 追いつけるもんか

サト (しつこく狙う)

レフニイタ リモドもあリしを西説にしたのは誰なんだ!

137
雪田

セノ
（幾年の事でナア）

セノ
何や　喋らへんのかお前！

雪田
（うほすく）

セノ
（うしーま　一オニカガリで　リリから　お座り

雪田
(座急)

セノ
(雪田の頭をコリニヒ叩キ)　どうせモビ　等枝の友達と新しい遊びで
もしてろんやう。しようもなハ

雪田
(毒れる)

セノ
まあ　お前も達にこだめるや奴がいる

雪田
(照れて何か言う)

セノ
（うん　あの夏　お前は縁側に寝ながら草薙國體を読んでたんだ）

雪田
(うなづいて三えナア)

セノ
（その時間立てた東には　空中で弓矢が止る　というゼーンの空説の話
がのつてました）

雪田
(慌ててうに三えナア)

セノ
（おんじ縁側の梅屋を越えてお出しだして來ました）

曾田 一悲しきうた三三キテ

ラ うん 之所の手帳本の弓矢に箭尾を附いてぬ

曾田 悲しきうた

セノ

お前はお亡しを行把レ そして 二度と弓矢に当らぬりよう 弓矢が
止る應該から セノニ 乙名付けまし

曾田 一一生懸命の三三舍也

セノ 一あの時の あの 人間と蝶との出会い やいとあ亡しは“夏の重”と
名付けてる

曾田 ハアシ

セノ

何故で? 事をよく見て都覽 夏という漢字は二本足だろ 夏とい
う字はさうヒニ本算して四つ足に見えるだけいか

曾田 (娘しきラヒ言えキヤ)

セノ うん 五三しといつ四つ足の夏が お前ヒ一ラニ本足の夏に出でたん

ト

音年

高まれば トはこの様な放行きを 碑山場と呼んで呉れるだろ

トカ

飯塚と年波 ト場

失坎

權力者！

何で食事は退場しないんだろう

飯家

下ラ 雷田

トセーニは 早くに退場してりま

雷田

(じじき)

飯家

(猫撫ひ事) じじろん寝ぬえす お茶はいいののか お茶は
(権力者を差し出す)

増田

(子) 飲んだ 猫 雷田 桜が整備刀槍古事の歴史だ方があり。

兵空

エクスキーズミー
うつ

矢吹

権力者 二ル玉御臺下ござり

飯家

(地面を踏べる) 何だ 猫の老けなりか

延次

ゼーネです 権力者

飯家

何アタリ一面巨と一地面の毛を擱て行くと雷田の足許に着く 雷田

卷之三

卷之三

白居易集卷之二

モノニハ二ニヒキルカハ見モ人だな囃田セニモええ、何う
けんじ白秋（しらあき）が口すよんじをあ叶一
ケロレコ

卷四

續編卷之二

お茶を濁して原

飯家
一 繰り返し書く茶は仕様やほり 善しく西三のめ子う
仙ガニツキまつじき

畠田一実 意を以ひて云々一叶を起す

医室 口せの達成しています

行々キニヤフを起しシテシノ

14年定
三人
妻嫁だ妻面懶嫁だ！

ト 番渠 セーニとウ年 番三屋に進めハて居込ん云根方

セテ 次々毛づキ紙を開封すると 三枚の白紙がふり下す 草元 番之
く笑ひい！

大連 (岩の極く深所)

ウ年 くそ！

セノ 番之や

三人 一行ノ牛を阻む 巫女！

セノ あ 四面楚歌！

番之 も 積善差ししくなり

大連 同じ年頃は

紡織 私が 私の名は權力者だ

大連 あつ

二五 願付 大地に願付くが宣し

大連 あんほこと云て可

番之 嘘だ 僕は テロ食へなり 血執事を食べろんだ！

趣譜

トちと左に分れ方と、セーニは喜田ペニ ゆ年イ喜田ペニ無ヒ慶吉

鶴五

大コロメ めの子はお手いでの血統書ほんか書てねえど

母太

猫だ もの猫が持て居ん

鈴矢

——猫が大の血統書を持てる。

江大

おキヤ高いた文字だよ。

美子

右手で書けらるえ事 リルノモ此の血統書に直つなりと見た

大達

ほ

江次

五之江 才氣でソんほこと思てゐる

美子

西吉——

飯庄

めだりの

美子

あモリ前田のクスカー！

一同

（コレル）ふ、古い！

喜田

（喜々喜）

鈴庄

（古といふ）

143

喜田

ち 古い じゅうすだ！

先生 参加したねとのぬ

ト一同 舟田の努力に感心

飯塚 せや 何故この子の血統書でなき 不可かしいだ

母大 ろの子のが一番当えひのよ ほ

飯塚 え！

母大 えい子の經りあが一番当えひのよ ほ

母大 血統書を手にして自うすしのこ

妻子 一文斗するんだ

飯塚 あんつ

妻子 全國の血統書を 交斗さんだよ

飯塚 け 血統といふのは クワーラ意味だのか！

母大 ぢや ろの前に 日べこのイミテー三ニを血縁りにあけなんだ ほ

妻子 わう 思い切りドラマをくにへと フスメモウを出す

飯塚 へぐとじじて お腹は有だ！

生穴 因襲をやめ！

父 大丈母で重いおまんすか？

妻子 ほりやせんか？

父 大丈母えんじ歸れすか おは
妻子 ではやはりトラマツルギだ！

ト 自刃を教く 妻子達

矢吹 僕力者！

飯塚 人をチビ語ヒ落だな

妻子 御覧 すらりと美しい自刃

矢吹 僕力者！

飯塚 呼び仔

矢吹 え？

飯塚

矢吹 成り立たぬ 飯塚君！

妻子 鮎の子だ。

147

江次

早く畠田さんこの口を解いて！

飯塚

ううんえーと

矢吹

向し玉の

飯塚

料白を忘れまー！

矢吹

儀すマトーリーを見たいんだ

飯塚

あ健介マトーリーを見たいんだ

ト・音 畠田の娘に生氣が附えた

三人

畠田

矢吹

畠田

矢吹

矢吹

畠田さん！

一馬はリ飯塚をいたゞララとすき

矢吹

(矢の矢先を取リ 投下つけを

左の矢先を投下せが！

矢吹の合図だ！

宣也 左と左のミキビ！

曾田 「左キヒヘニ差し出し」 美多 ニ此が何とかかるか
共飯 何リルサ！

美多 ヘニだ 剣はソ弱リヘニだ

曾田 ペニはアニコモナ四百年代々裏田ペニに参りテ 剣に勝つトヨ、ハ

大連 剣に勝つペニ

曾田 あラ 畏懼空も無て一た わ意アニヒペニガサヨリ伸ムる

ト 番樂「此の奥之ヒ叫ム斬リカガル大屋」 だが如意アニハ強ヒ 死援
するト々

ウタ ベニが剣に負フスナヒ！

母大 駿郎 仲マヤリヤスセ

美多 情けナリニキ一セイ

曾田 あたた 一月吉折

矢吹 どうしたの

45¹⁴⁹

150 ~~146~~
飯場 美子 太連

は、女は中年並がビ 若干云勝て

けい。

曾田こん

馬鹿野郎 老エジ貰つても年齢云勝てる

ウーし 何ラカナ

しかし このヨモジ勝負つかずだ

では いよいよ奥の牛を見せよう

(娘しきラニ) え まだあるんどうか

あるすがし

あ やは自付き

曾田

松ヶかつてヨーニのフロイト先生の許で修業してこいた頃書いた字だ

精神分析の術と あとは
精神分析の術の

ア もとやは自付き

飯塚

一同

曾田

年少!

曾田

年少!

鶴田 飯をもふ事か。

矢吹 云も。

鶴田 いいんだ。解す。

矢吹 はい。(思ひきソ飯をもふ事か)

鶴田 伊ほほほ

ト 意義 可うと 心身を喪失した無機の体モリ 五人の人物が現れル 各頭にはヘル

太一 名々理性、鶴童、エゴ、自尊心、恥とかかれてる 鶴^ク一同

美子達 句だ二つ目

鶴田 者を意識す 精神分析の術を餘談の者を意識と呼ぶ訳したんだ

一同 ヘえ。(感動する)

鶴田 金魚ハカラ よし 理性

(精神に歸る)

矢吹 何が精神だ理性か

畠田 もんじょんとしろ 万前が一番偉いんじゃ 自尊心 出て来い

自尊 (身屈ヒトナ) くなつてゐる

152 畠田 何だ 年屈が皇帝じたば 今怎様な氣もするが

ト 駄々と自尊心を見くらべ 納得する一同

兵吹 あをこがトナニなつてゐのは?

畠田 ドニツ

兵吹 あのはじの

畠田 死だ どう死だと言つても死わしがてる あ おい

エゴ (レフの國にか遠席に入つてゐる)

畠田 エゴ ニルエゴ 自分勝手に行動するんぢない もし 最後は統重だ

統重 (一罵をして兵吹におどりやがる)

兵吹 (驚愕)

畠田 ニル止まろ。統重に走るは 相手を遙へ 理性、欲望を抑えるんだ 早くじろ 瞳に

一同 理性が欲望に負けていい方!

統重 (畠田に色當された方)

喜田 せ 何だ

一同 喜田に色氣を表さるが、

喜田 あ 飯塚の奴 じの中ではこんなことあつていたのか 目下飯塚さん あ 目下

美多 (突然に犬の頭を照り出す)

江大 な 何をするんです何ぞ！

母 大 会長！

美多 こちうも潛在意識を出すんじ んえい 出て來い 二の二の、

江大 (悲鳴を叫き)

美多 何故だ 何故出来たり！

喜田 無駄だ 美多

美多 馬鹿者 お前に出来て私ヒ出来ない筈やあるか。(やうに顔色)

¹⁵³ 江大 大丈夫すじですか

喜田 出るもんか

江大 でももしかして

喜田 大丈夫 絶対に出なー

矢吹 自信が足りないので、

¹⁵⁴
喜田 一もう召着が済まない

美弓 ええ、筆急が困め！

矢吹 われ カカレ！

ト、美弓 徒歩意識達 美弓に想へかかる。と聞えたが、一度して美弓の厚意に加わり

喜田 達を取リヤニモ

喜田 お前の飯塚が徒歩意識はぬまは

理性 意識の説をゆかでさしレテ

エフ よの説が聞えたもんだからあたし達

五人 走を廻つて来たんだ

喜田 実てであるんだな では

矢吹 りうで 僕達は 御覽

五人 二れさー。

ト 主人 ナヒナヒ出したものは「スープ」か「全温度チャーブ等々

左近 スープ一サド 全温度チャーブ。

鶴田 現在意識で 洗者の意識だらうのか

ト ヘルメットと衣裳が脱がれ 素裸の五人 白衣を着ている

知っている人々 あ 洗濯屋！

知りはない人々 え？

川崎 洗濯屋 何のことです 洗濯屋？

山年 二者共一には至らぬえど、

川崎 成程、だが 還採はもう終りました

鶴田連 何だ？

川崎 連はいるべきものは連はれた と言たんじます

左近 誰かの一体

川崎 我々は こいつ（中指差し出す）

白衣達 一ヶ月此の指を差し出す

五本指?

154
兵士

元元 右手の

五人 玉本指で可

アラ 馬鹿野郎 俺らは裸情空山山立

川崎 いいえ

五人 この手の右手の

當田 さんほ右手誰も運んじぬえ

川崎 確かに 運搬は冷蔵庫から必要だからなんです 左手を運ぶ必要ないか

増田 あ?

川崎 ビニオグ この手は最初から右利きだと思います ソラですぬ 御両親

ト 何時の間にか三匹の犬は両親にはてる

母大 ソラです 生まれた時から
父大 着て持つにもペニを握るにも
三匹 も牛でしゃ

川崎

ソンは右利きが左の一部の脳半球に集中して走路を練るうし
一人舟にまで視線をさせねばならない程をキヤレシリ出でべき事でどうか
少年 僕の親父はカモノトシ お父はアラニウトニだ
父 大力世に年齢を聞く時は先づ自分の年齢から年数りはナリと教えられた
か父さんは

少年 もう結構

母 大日光を見てから結構とお言いとお母さんは教えながだつ。
少年 家中の物語を向うで聞いたがう。

母 大両親の愛なのよ

少年 僕の左手を喰い手やカラとした

父 大野良太だよ あいは

白コ 𠂊たろ、二以上二の視線を無意用ひ左手を邪魔しないで呉れ
白衣達 しないで呉れ（詰め寄る）

アラ 右手が左手を喰ふ氣だ！

155 白1 五年指にも充たないで何が左手だ！

上 右手の白衣 左手の鶴田達左義三
音

156

鶴田 左キヤーー鶴田は乞が 夏の川端にウ類はきほニスボタベの日 左指
カ玉本 左急が三年という手の手が生まへました（左キの法則で）三
本の手はへこに運びます 我々は只の手の三本若狭の日

白2 出鳥目を言う

白1 カ一、三本指が目改四人息方んだ！

鶴田 三人だよ

白1 あい 二つは籠を馬鹿ヒしたが 鹤田の算数は出来なんだ ひい
みう カリモホ見ろ因んだ

鶴田 三人は 以小は この猫が “ペニ猫” だせんだ

白衣達 ペニ猫？

鶴田 ベニを握小は自手と中指がコシニナハイ多ベニタクも左キの三本指と
甘い手 ベニ猫、ヒ古名ひかく

白衣達

アラ 見ろ 一瞬書けたる

喜田

そんは猫とも言えない猫を牛の中猫といふ男の子なら 成熟の
だけくらべはど何故次く風と夏の黄昏に早熟甘想いや恋意のうせる
のは致しあるい事の様に思ひ入ります。

喜田

右牛もあじばレトリックヒ冒すでいいのか

川崎

そラ世の中には 早成熟者が故ヒ罰せられるべきものがあるんだ
白エ 右のレトリックヒ冒す 右牛の本格にくつけちまうんだ

ト わ牛の玉本格 セーニュラ 番外

喜田

喜田先生！

ト ニム 視線を努力あめせる

1517
喜田 何ぞ向志して居んぞ
喜田 視線を落させてお送り。

日記

中島とペニタコが親類を絶ませて 繩弓はにズルを結ぐ矣だ！

158 川崎

この世には 早矢希といけないものがある 則えほ 例えほ こいもを
へそす 進元 治の進まじも進うんだ

ト、セーニ 走り名 遠川崎達も

アラ

喜田さん！

喜田 カツエ 様が極めつけの男の子だと思ふ時分、僕は一匹の鳴鶴と
こんじ風に名あた想様の縁を辿るは 云ぬも可四つの音符を縁側を造
したものでした――

アラ

ヤマキ 物語のヤマキかけなんじ

喜田

ヤマキ 回えがんじ

ト、喜田達 去る 音楽 写真の机ヒ五つ 三人家族

江太 ナホ もう帰ろう そや遊しだろ
か年 何處へ カモノトシの女さん

母太 堀生の我が家へ 他に帰る途有んことをもとよい

少年 リンヒ向が屋てろんだカラ フラニクトニの母さん

母太 暖い夕飯と雨窓の愛や 父ニカドクスルと育ておくれ

少年 リモネだ逃げ足りりんじ

母太 錦三は屋根裏をやるがいいさ

少年 屋根裏 雨想裏部屋で?

母太 リラキ 不幸打頭ノ子がいつや言葉は蝶々へと変身する身上語工筋ハ

二八詠屋工 釜ニには行書といふ名の孵化臺やリ乞物の

少年 行事?

母太 寂ゑは我シが わつて君に掛けた 唯一の気臭さ

ト モ人 屋台は実の「屋根裏部屋」に入てゆく 舞けにカーテンが閉
しる——音楽高揚して——— 著明リの墨色

音楽 高の上 目に恋して鳴く一匹の猫が居る 手前で笛の音の様
な鳴き声 服飾器ア 増田 レ写

喜田 ああ 三十年ぶりに屋根裏の行李を聞けキテと 色眼せだ左吉に表て
娘、かしいキ紙が出て来オレも もうとんば理不尽に情熱でもあらま
ヒ かつて僕が『逆説の牛紙』と名付けた牛紙はまるで今日聞かれ
るのを知ていたかの様に僕の目に飛び込んで来やした

セノ 誰?

喜田 ト百年も前から玉藻の大橋にさし足男さ

セノ この眼には眼旅に見えろや

喜田 左様 腹に傷無つ身を御座しゆ

セノ 腹に傷?

喜田

舟廬の狂き所 そこには傷があるんです 今宵の舟廬は立チの疾で擣折
を濡らしやす

セノ その娘は悲しい思い出?

喜田 いえ 目標達成の娘レ族

セノ だが 才能も帶びぬ二の身にかけ加えて我輩は娘である

喜田 へえ

セノ 生若上非ずして娘あれ いや四百の輪を生もたらほ若いとも言えまい

喜田 楽しきやす 明日リヒモ特ハ金銀珠ヒ三毛の鏡 知リテせんば

二ノ鶴ノ毛もシテ四百日 た百九十九匹の魚を待ち遇えセリた男の喜
田 では 近頃二の種大路を駆セテイ右

喜田 金様 今宵コト起義願ハ 千匹目ノ年三毛ガモカラレキナハ

セリ だが お前の事ニ屬リ二名のだろウか りんは情熱を新ハ人々が向ヒ
喜しきる所

喜田

知ニヨリ 京洛の街ガ喜ハサモ須心不機の蘋子に佇む男の姿はリツ
シカ人々をして思めセモした 又小口毛と通をしてスルビ一ノ首
黒周着を着て袖が塔子を搭ゆを一夏中這ひかけた男が居テスラヒ 一
の男もまた塔子トリ山も次して見ることもばい無な胸に走をしてい万
ヒ走リけり いや 走をしてい万んど

喜田 井人百姓旅寺村より此の血縁家にてをして何をするんビラウ
喜田 並説を順次に連しテ
喜田 そラ可少ほミレ御を川に葬リ一ノ瓶が埋めろんじまはリセラウか 多
少と悪い込しシハ けん入小知恵をした尾元けりが

喜田

雪田 川辺の夕顔が 言た様に思ります

雪田 セノ カリ云はる前の右半が書い、左諸々は解かねばいシシに存名
二の世ヒテ解かねくてもいい説々がある カラ教えて貰ひたのは
セノ 夕顔?

雪田 緑側のおしただ (柄に身をやけろ)

雪田 カハ——本当のことと言わうか

雪田 備だ 本当のことなして聞きせむ

雪田 刀を抜く

雪田 四百四十と幾山に懸山に遙た橋句に僅の視線が巡りつりだ 二小が進

雪田 狐ほぐだ。

雪田 馬鹿 ちからのか

雪田 ん?

雪田 セノ ちからしだけ 二の世には遠云可ならぬくともいい二三があるんだと

雪田 教えたのも外にしらぬせ

雪田 あん時語ましたト首の様だ。

やう うんだ 無二五四

163 舟田 納ま可ト指はしのい草つき方によこべテニヒセマルにもなるせうが
僕の約束は運びへ運びことを嫌がる三角形に絡むんだだから行
くに立ちはだかる説々や運搬に対する僕のはいつど三脚と答えた
う——ああ 来意が龜る

やう 舟田 りの発り方にしてからが 下方に三角形をしてゐるか
じんかつ。

やう 舟田 や、

やう 舟田 こうやこの角の人生き延びとくなく運んでゆけば どうも偶然だと不
思議なものか いや 既然そうもが偶然になるとんじよとも言つた
やう 舟田 さも何でそんだけ偶然を味うしたしだらう僕の
やう オレは

やう 舟田 会てる 僕の半紙さ 随然と雑然とと読みきゆけば この底く墨もす
い半紙も いつか偶然として風くんじなーか やう思ひこむ

ト、今のは昔と今のは昔と 川崎 ト馬

川崎 これが君は一つ思ひ直らきしてーーた

喜田 んつ?

川崎 どんだけ偶然も不思議で起れば 今日全てが必然だときうーーすん

だよ。

喜田 川崎に住む川崎先生——

川崎 いつがちが君から 略してあり喜田の確率の話を聞いていたことが喜田を收

喜田 ラン

川崎 老はドルが四百年に一度起るんだって言つた

喜田

そうさ。物理学者はマックスウェルの惡魔と言つて、(セミ)迷い込んで来た
猫にセーニと名付けた日、僕が緑側の字書国鑑の二度目に見つけたの
はアリ導石の確率の結論でした。よく理解できずセーニに聞くと、川
は一本の鏡に映るハニカムのことなんだって教えて貰つた。でも

川崎 でも

喜田 僕にはなんが確率が至極あり得ることの様に思えましEヒト

川崎 そして君は おる晩うの左半に銀色のトニマーを握りしめたんぢ

菅田 ああ？

川崎 帰えご観覽 二ラ音ラニシガ一体 偶然な力か必然の力か！

L.

菅田 舞台裏のカーテンが開き 雪降る夜の中 を二三は 歩く
ガードマート降りてし カモノノミの女性さんと ヤラニカトニの
お母さんの顔をめで打らにして いろ光景が見える 血脈律に走る行
李の中 一色々行トカガ 色々行所ガラ キ緋をわざして出て
く方

菅田

君が並説のキ緋とモ付ケルキ緋

矢次

片山がござす

菅田

お父？

白丁

差出人は君

白丁

おして差取人も君だ

白丁

死んだ後に生れ立たぬ自身に定めて君は一画のキ緋を書いた

川崎
筆子

しかし君が生きていける限り君のキ紙は相手に届かない
りして君が死んでしまったならば生小鹿たる君にキ紙を渡す者は居ない

くはる

アラ おしなりあり得ようもないキ紙を名はゆめをしに

雪田
美子

お前には?

一同

アラ おせろ 国語で書いた物を自分が読むんと出来やし曰いんだ

川崎
美子

しきいしじ
自分で書いた言葉ヒ復讐トシテハ為にはりを説きけりこじまのに

一同

君はりを説かんじ

雪田
健次

今度て読み継けておじなーか

自己
イクシナ事ガ起るのはお説の中だけなのに

自己
お前はお説と併良くし過ぎたんだ

雪田
馬鹿野郎 や二行男のチの特権だぞ

同一

連通り

鶴田

ああつ。

川崎

また矢弓打いのがい もぐはくひをもき取りに来たんだ

ト。音楽

同一 ベーニーへの想恋をほの隠ヒ表山し 身懸乞

セ

(吠え方)

鶴田

白い鳴き声が矢弓打いんだ

川崎

こあ 四五年前の今日に運びで下さりもう一度

鶴田

何を?

書

句を 無せかへて遠び失して棄てたものまさ

鶴田

例えほの

自コ

例えほ ローマ

下矢

例えほ 一人の女の中

167
筆者

名しこ

白雲連 例えば オキナ

168 川崎 ドラゴンの王 もう一度迷路画して安レヒんだ

上 薩摩 金魚 右キニ ドラゴンを振り上げ じかとセーニヒにジリギリ
下 犬丸起命と一ノ馬 —— 萩田 ヒー二ヒマツギトモ “萬馬” ハノ
二の抱手

皇 ニーハ 龍と虎の斗争を參り、

白の
猫の毛を

アラ
いや 暗黙の古だい。

白の
弓矢を握めにすこ苗えも

日十
曲輪が廻説にならんが

畠田 何ぞこの血は 真青け血を、

喜多 ドラゴン血じ等る、名はモードイニクガシル

畠田 イニク。

川崎 ああ キイジー一つのね、

白の
猿の血は一つ同じ真青けイニク色かんが

兵吹

御目出とう やと左利きを矯正しましたね

壇田
何を書こうんだ

と手けるのはよせよ 始めから見てるくせに

壇田 飯塚一、何うレしたんだ

ト見山は 飯塚 石化してるので

兵吹 何うしEの 空具なんだに喋りやがて

壇田 空具だつ。——兵吹

壇田
(石化していき)

壇田 石化する 空具の人物へ石化

壇田 (壇田) 空具の人形 二つ並ぶ

自立 どうぞおじて

白衣達 僕らも

七 白衣達 石化してしまつ 石化する音

川崎

書田

もう番屋を出でてお行き

書田
箱庭
ここがの

川崎

ええ おひいの一人井がうの右半に爲たから

書田

僕は 箱を一匹差し已だけど

川崎

物語がりう寄じるのす

書田

ああ?

川崎

あたラ、書田と、う名の因西田目せん

書田

ああ 箱庭

川崎

書田と、う間、書はこの箱庭に遊び続すをし

ト、御子守 ラルズのレクイエムの懸け も楽

書田

(花束と)一やがて 箱庭の斜ば著小竹む頭 にす橋の欄干に行ひ

第の客は いつしかト々をして退めせずした 又はきと志をしてい
るんだ 箱の奥も本庄を井上、片山も來して見るこしもけり様は左
手にたして口方に廻り在り おの晩 寝間着を着て箱や枝下をス
ミ一夏中追ひかけた男が居たまへト――

上 人々 人形の如く て台の東に立かへ——水の音がする

増田 —— 何だくこの音は

少年 あり得ない確率の音を マックスモードの悪魔
増田 繰り返す。

少年 サヨナラ もう僕らは手を切るんだ

増田 僕らが 牛を切る。

少年 ああ こうやつ子

「 少年 自己の左手を切る イニクの體味

少年 街上で 僕らの体に詰まらないイジードルウ 今 あり得ない確率による水と二つが
力離してゐるんだ

増田 —— 馬鹿な——

川崎 二の水を這ひ海へ 木山も無用と言う海へ二度出立つ そして百年の船海を四つ 四

172

卷之二

つ四つの筋道が終り、再びこの羅城に戻ってきて来るよラ——

一、そこでゆく人々の脚下驚嘆
船頭の送迎手てが亂山疊波

——京の街が暮山に暮れ
暮れの柳子にゆく風の聲は一つしか人々をして感
わせました

上聞二之四

卷之三

The End

1980 08.26

音本
鑑